



# 建築人

7

2013



# 森 忠一



建築そのものではなく、建築に関わる人に焦点をあて掲載する「建築人（けんちくびと）」。「人のもつ魅力は、職域を超えても理解しあえると考えます。創作の源泉や姿勢、人生哲学、ライフスタイルなどを垣間見ること、共感できる気づきを得ることを期待しています。」

第六回目の建築人は、建築家・森忠一さん。村野・森建築事務所にて村野藤吾さんの補佐役として従事されました。生い立ちやフランス留学により得た建築哲学などをご子息の森忠彦さんと森忠一さんを師と仰ぐ建築家の木原千利さんにかがいました。

## kenchiku-bito

- もりちゆういち
- 1908年 大阪府生まれ
- 1931年 京都帝国大学工学部建築学  
科卒業
- 1932年 フランス政府留学生として  
パリ国立美術学校にて研究
- 1935年 村野建築事務所入所
- 1949年 村野・森建築事務所に改称
- 1968年 黄綬褒章受章
- 1999年 宝塚市にて永眠

### 名補佐としての生きざま

中澤「建築人」本年一月号の中で木原千利さんがご自身の恩人として村野藤吾さん（注1）の事務所「村野・森建築事務所」の森忠一先生をあげられました。森先生と木原さんとの関係はその誌面上でも少し触れられていますが、私たちが興味を持ち深く調べようとしても情報が非常に少ない。そこで今回は、森先生の人物像を浮かび上がらせることができればと、木原さんにも同席頂き、森先生の御子息である森忠彦さんにお話をお聞きいたします。

森 私の父親・森忠一が亡くなり今年で一三年経ちます。父にとって村野先生は人生を引っ張ってくれた師であり、自分が縁の下で支えるという表現です。おこがましいくらい存在だったようです。だから村野先生に一生を捧げ、自分は補佐役に徹していたようです。二年前に母も他界し、最近になり家の整理をしていると父の生前を偲ぶ資料が多数見つかり、それらを封印してしまおうと考えた。自らは補佐役としての人生を選んだ父ですが、そのような生きざまがあることを後世に伝えることも少しは意義のあることだという思いからお受けすることにしました。

### 生い立ち

中澤 まずはご存知の範囲で結構です。で、森先生の生い立ちからお話しいただけますでしょうか？

森 父は、明治四一年（一九〇八年）に七人兄弟の長男として生まれました。出身地は、南河内の大保（現在の堺市美原区大保）になります。民家として重要文化財指定を受けた有名な「吉村家住宅（注2）」の近くに位置し、吉村家とは古くからの知り合いでもあったようです。学生時代の友人と共同で「吉村家住宅」を調査し、「建築雑誌（注3）」で保存の提言も行っています。

中澤 「吉村家住宅」は、長屋門があり、立派な大和棟の住宅です。女中部屋が吊部屋になっているのが面白いと思いました。

森 女中部屋の部分は少し後の時代に造られたようです。父は、民家を保存していくには、時代に合わせて新陳代謝させることも重要だと言っていました。

木原 「吉村家住宅」には思い入れがあったようで、何度か話をお伺いしました。森 父は、旧制富田林中学校（現大阪府立富田林高校）から旧制大阪高等学校（現大阪大学）に進み、その後、京都帝国大学で建築を学びました。大阪高等学校の頃から建築に憧れていたようです。当

時は、長男が家を継ぐのが当たり前で、遠方へ行かせてもらえなかった時代ですが、祖父は許してくれたようです。祖父は、当時から子供の教育に非常に熱心で、時代が大きく変わるといふことを感じていたんでしょうね。

### 森田慶一との出会いとフランス留学

森 そして、父は京都帝国大学で森田慶一先生（注4）に出会いました。父にとって、森田先生は人生の最初の師なんです。先生に出会ったことで父の人生が決まったといっても過言ではありません。森田先生に見込まれて大学院にまで進み、昭和七年（一九三二年）フランスへ留学することになりました。フランス政府が日本人の各部門の推薦者5人を招聘し、留学させるといふ制度がフランスと日本の間に初めて交わされ、建築部門で森忠一が推薦されたのです。留学先は、パリ国立美術学校でした。

荒木 エコール・デ・ボザール（注5）ですね。

木原 招聘状が届いたんです。森 そこには神戸港を出発する日まで細かく指示しており、給料も記載されています。向こうでの滞在費と学費が出たんです。留学は1年半ほどだったと思います。

荒木 エコール・デ・ボザールは、当時伝統的な建築の教育で有名で、どちらかといえば保守的な学校でした。しかし、森先生は京都帝国大学の卒業論文でアン・ドレ・リュルサ（注6）という当時では新しい建築を手掛ける建築家を取り上げておられます。様式建築からモダニズムに移り変わる時代に国から派遣され、様式建築を学ぶことを求められながら、時代は新しい建築の流れへと向かっていく。非常に混沌とした時代に留学に行かれたんだなと感じました。

森 そうですね。それまでは東京帝国大学の卒業生が国費で派遣されていたところを、フランス政府が招聘するかたちで森忠一が京都帝国大学から初めて行かせてもらった。きっと、違う大学から行くことで従来とは違う視点で建築を学んできたのではないかと推測しています。

荒木 当時京都帝国大学では、武田五一先生（注7）が一九二〇年から教授に赴任し、東京帝国大学を卒業した森田慶一先生を助教授として招聘しています。草創期の建築学科が確立されつつある時期だったのではないかと思います。武田先生から直接の薫陶を受けた森田先生、そしてその影響を受けた森先生というのが、関西の建築をつくる上では、非常に大きな流れになっているのではないのか



上段 インタビュー風景  
中段 吉村家住宅  
撮影 上段：田龍哲也  
中段：中澤博史

注1 村野藤吾(1891~1984)建築家 1918年早稲田大学工学部建築学科卒業。渡辺節建築事務所に入所。1929年村野建築事務所開設。1949年村野・森建築事務所に改称。文化勲章、日本芸術院賞、日本建築学会賞など受賞多数。  
注2 吉村家住宅 桃山時代の書院造様式を残す民家で日本初の重要文化財に指定され、江戸時代の庄屋屋敷の様子を伝えている。  
注3 大阪南河内吉村邸の建築「建築雑誌1936年6月号」日本建築学会  
注4 森田慶一(1885~1983)東京帝国大学建築学科卒業後、武田五一からの招聘で京都帝国大学に赴任。京都大学建築学科の初期教育陣の中核をなした一人。「ウィルヴィウス建築書」(東海選書)の翻訳で建築史に大きな一歩を残した。  
注5 エコール・デ・ボザール 17世紀パリに設立されたフランスの美術学校。350年間以上にわたる歴史があり、建築、絵画、彫刻の分野に芸術家を多く輩出した。  
注6 アン・ドレ・リュルサ(1894~1970)A・ロス、R・ノイトラらとCIAMの活動に従事したフランスの建築家。コルビュジエの影に隠れていたが、数多くのアトリエ住宅を残すなど1920年代のバウハウス建築に強い影響力を持った。  
注7 武田五一(1872~1938)建築家 東京帝国大学卒業後、同大学助教授、京都高等工芸学校(現・京都工芸繊維大学)教授を経て京都帝国大学建築学科を設立。「関西建築界の父」とも呼ばれる立役者。雑誌「新建築」の創刊にも関わる。



上段 ギリシアでの森忠一氏  
中段 バリ留学時の寄宿舎（パリ国際大学都市日本館）  
下段 従軍地ハノイでの森忠一氏  
撮影 上段：森田慶一  
中段：荒木公樹

注8 森田慶一先生を偲んで「建築と社会1983年5月号」日本建築協会  
注9 ヘロポンネソスの旅「建築学研究No75～771934～1935年」京都帝国大学建築学教室  
注10 シトロエンと私「CAR GRAPHIC 1962年10月」カーグラフィック  
注11 森忠一先生を悼む/木原千利「新建築1999年4月号」新建築社

と考えます。  
森 そう言って頂くと息子としてうれい  
中澤 森先生が留学されていた同時期に森田先生も文部省在外研究員としてパリに來られるんですね。森田先生が亡くなられた時の座談会（注8）で、森先生がギリシアとイタリアを車で旅したことが記されています。

森 父は森田先生と一緒に旅して、非常に影響を受けたようです。森田先生が書かれた論文（注9）に、「ここでポーズとっているのが森君」というように父の写真が載っているんですね。  
木原 森先生がフランスへ行かれて、フランスの思想と自身の思想とがスッと溶け込んだようですね。

森 そうですね。いつも、「自分はフランスに恩義があるんだ」と言っていました。日本で起こるいろいろなことをフランス的にはどう考えるかということ意識していましたね。

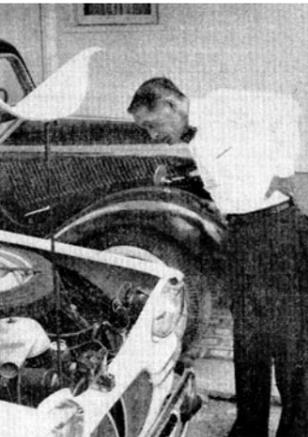
### 村野藤吾との運命的な出会い

木原 帰国後、森先生は森田先生を紹介して村野先生に出会われたと伺いました。森 そうですね。父は先に帰国される森田先生をお見送りの時に就職先の紹介を頼みます。その森田先生に今度は村野

に優しく、使いやすいものでないといけない」と、仰っていました。  
中澤 居住性が重要だということですね。シトロエンの名車2CVの開発の際にも居住性を重要視されたという話を聞いたことがあります。小さな車体だけだと紳士がシルクハットをかぶったまま乗ることができ、田舎の悪路でも載せた卵が割れないと。

森 父は、「車は技術に裏付けられた機械だけれども、使う人の心をくみ取ったものであることが大事だ」と言っていました。ホイールベースが長いこともシトロエンの特徴の一つで、これにより居住性が高まります。小さなポトは一波ごとに波の影響を受けますが、大きな船はいくつかの波をまとめて超えていく。それと一緒に、凸凹道を走るときにホイールベースが長いと安定性が高まります。前輪駆動による合理性とロングホイールベースによる居住性とが組み合わさり画期的な車に仕上げられていました。合理性と居住性とを併せ持つことは、建築をつくる上でも重要なことだということですね。

木原 森先生は、シトロエンの話になると何かに取り憑かれたかのように熱く語っておられましたね（笑）。  
森 父は、新しがり屋ではなかったの



先生が手伝ってくれる人を推薦してもらえないだろうかということも偶然にも相談されているわけです。それで、「森忠一という者がもう帰ってくるんだが」と推薦してもらい「森田先生のご推薦の人だったら、よろしくお願いします」という流れで村野先生の事務所で昭和一〇年（一九三五年）から勤めることになったと聞いています。

荒木 「さう百貨店（一九三五年）」などが竣工して、事務所の体制が確立されつつある時期ですね。

森 そうですね。ご承知のように村野先生の出身は早稲田でしょう。「森忠一との出会いを介したのは、早稲田の今井兼次先生あるいは佐藤武夫先生だ」という話も聞いたことがあります。しかし、私が母親から聞いているのは、森田先生からの推薦だったということです。それを裏付ける手紙が遺品にありました。その手紙は、フランスから森忠一の父親に宛てたもので、帰国後の就職先についてはすべてを森田先生に任せたいという内容でした。

森本 村野先生との信頼関係は、当初からあったのか、それとも時間を経る中で生まれてきたのが気になりますね。  
森 あくまで想像ですが、建築に対する考えや人間性が一致するということが森

ですが、シトロエンに限っては新しい技術や機構が搭載された車種に必ず乗り換えていましたね。所有していた11CVという車種なんかは、戦後に日本へ輸入された最初の一〇台内の一台だったんですよ。当時はシトロエンに関して詳しい方があまりおらず、父は熱心な愛好家としても認識されていたようです。カーグラフィックの記事も書いていましたし、日本車メーカーの開発者が訪ねてきたこともありましたね。

### フランスとエレガンス

木原 森先生は、フランスの話題として、エッフェル塔のこともよく話されています。

森 エッフェル塔は、圧縮材と引張材でトラス構造を持ち合理的であり、独創的な建造物です。水圧の斜行エレベーターは、シトロエンDSに搭載されたハイドロニューマチックの油圧を彷彿させます。父親の持論としては、シトロエンはエッフェル塔から影響を受けているのではないかというものでした。

中澤 森先生の仏壇には、確か木原さんのデザインで、エッフェル塔が描かれているのではなかったですか？  
森 木原さんにデザインしていただき、エッフェル塔の象嵌が刻まれています。

田先生が見通しておられ、またお互いに森田先生を信頼する関係だった結果、出会った時からある程度の信頼関係は築けていたのではないのでしょうか。運命的な出会いだったのでしょうか。

### ハノイとシトロエン

中澤 村野建築事務所に入所された後、第二次世界大戦が勃発しますが、戦争中はどのように過ごされていたのでしょうか？  
森 ベトナムのハノイやサイゴンに従軍していました。

木原 ベトナムはフランスの植民地だったので、フランス語に堪能な森先生は貴重だったのでしょうか。  
森 だから父は建築技官として軍の施設などの建築図面を描いて各地を走りまわっていたようです。駐在していたハノイで、日本の侵攻に対してフランスが戦闘を放棄して建物や車などをそのままですべて明け渡した。そこで父に仕事用として好きな車を選びなさいということになり、フランス留学中から憧れていたけど手にすることの出来なかったシトロエンを選んだようです。

中澤 その時にはじめてシトロエンに乗られたんですね。  
森 そうです。シトロエンに乗り、ハノイ

木原 女性の優雅な振舞いなどに対してエレガンスと表現したりしますが、森先生はよくエレガンスという言葉を使われていました。例えば窓を掃除するのには、どんな窓がいいのか。イギリスはギロチン（上げ下げ）窓で、外に出ないとガラスが拭けない。その点、フランスは内開き窓だから室内から窓拭きができる。どちらのほうがエレガンスか？ 言うまでも無くフランスの内開き窓です。そこがイギリスとフランスの違いだって、よく言っていましたね。

中澤 この家の玄関も内開きでしたね。  
木原 住宅の玄関も内開きが良いと仰っていました。内開きになると、お客さんを迎えるときも、送り出すときも、部屋内に開いて、どうぞとなる。外開きだったら、自分が外に出て行かないといけない。そういう細やかなことまでピシッとお持ちでした。大きな都市の話や車の話も出ましたが、住まいのように非常にきめ細やかなところにも気を配られていましたね。

森 劇場などの扉は内開きにするのが法律で禁じられていますが、この法の精神としては不特定多数の人の避難ですよ。ところが、住まい手が特定されているマンションでも条例等により使用でき

イや奥地の施設や現場を廻るわけです。そのときの様子を創刊間もないカーグラフィック（注10）に寄稿しております。話の中で、ベトナムの山道の奥地を、シトロエンは、さすがに思っていた通りだったということを書いてありました。

### シトロエンの技術と居住性

中澤 森先生が逝去されたときの木原さんによる追悼文（注11）にも書かれておりましたが、シトロエンへの思いが相当あったようですね。

木原 シトロエンの話は何度もお聞きしましたね。フランス留学中に知ったシトロエンへの憧れや興味が、次第に森先生の建築思想にも影響を与えていたように感じました。

森 当時のシトロエンは先進技術を採用し、革新的な車を生産していました。その技術や思想を建築に生かせないものかと、父は考えていたようです。前輪駆動方式も早い時期に採用しています。前輪を駆動させ、後ろを引っ張ってゆく。だから、細い軸で引っ張ることができ非常に合理的だということです。

木原 それからシトロエンは、人に優しい。「砂漠を走っても砂が入らず、水に入っても水が入らない。それだけの高度な技術がシトロエンにはある。建築も人ないことが多く、それに対して反対意見を言っていましたね。  
荒木 一つ一つの住まいには出入りやお客を迎えるなどの日常があり、先ほど言われたエレガンスという話からしたら相容れない考え方ですよ。森 お客さんに後ずさりさせるような招き方なんて、間違っているよね。私は、内開きだったら外から丁番を外される心配も無く、防犯上の観点からいいと思うのですがね。しかし日本の住まいの玄関は外開きが多いですね。

木原 日本の場合は、内開きにするので水仕舞い上ディテールが複雑になってくることも原因の一つでしょうね。しかし、エレガンスという観点からはやはり内開きでしょう。そして丁番にはフランス丁番。フランス丁番の良いところは、森先生もよく仰っていました。扉を持ち上げると簡単にはずせる利便性。そして何より形状がエレガンスなことですね。

### 伝承されるものづくりの精神

中澤 森先生と木原先生と一緒に住宅の計画をしていたと伺いましたが、どのように進められていたのでしょうか？  
木原 村野事務所で引き受けできない多くの計画の内、森先生のご親戚の住宅

上段 森忠一氏とシトロエンAMI-6  
中段 森忠一氏の仏壇  
下段 シトロエンDS  
撮影 中段：田籠哲也

森忠一氏は本会の副会長を務められたほか、建築家協会においても要職を務められた。  
1951年大阪府建築士会設立発起人  
1954年大阪府建築士会評議員  
1962年大阪府建築士会理事、建築関係功労者として大阪府知事賞、第11回大阪建築コンクール審査委員  
1964年第11回大阪建築コンクール審査委員長  
1965年建築関係功労者として建設大臣表彰  
1966年大阪府建築士会副会長  
1966～67年BCS賞選考委員  
1967年日本建築家協会関西支部長  
1968年日本建築家協会副会長  
1984年日本建築家協会終身正会員  
1985年日本建築学会終身正会員



上段 大和高田の家  
中段 河南町の家  
下段 目神山の家  
撮影 全て松村芳浩

注12 大和高田の家「住宅建築  
1980年9月」建築資料研究社  
注13 河南町の家「住宅建築  
1979年12月」建築資料研究社

や医院などをご推薦いただき計画させてもらっていました。大抵の場合、打合せは私が単独で行い、要望を満足する案のスケッチを作成し、それに対して森先生にご指導していただきます。打合せは先生のご自宅か綿業会館で行っていました。特に綿業会館は、先生が会員になっておられ、良質の空間で打合せを行うという贅沢な時間を過ごさせていただきました。それを数回経てまとまった計画案を持って施主との打合せに望んでいました。

中澤 建築主が二人いるようなもので、大変だったでしょうね。

木原 打合せ自体は楽しかったのですが、先程のプロセスを何度も行うためプラン決定に大抵一年以上かかっていましたね。

奥河 どのくらいの数の建築をご指導いただいたのでしょうか？

木原 十件くらいはさせていただきましたね。長年ご指導いただいていたので、終盤は基本方針だけを打合せし、多くの部分をまかせてもらえるようになっていました。

中澤 では、比較的初期の頃に森先生から教わったことが多いのでしょうか。印象に残っているものを教えてくださいますでしょうか。

木原 モダンなデザインの建物はスチレンボードやバルサが適していますが、プリミティブなものは粘土が最適です。頭の中で作るのではなく、手でイメージを創り上げていたのでしょう。村野建築のあの独特のタッチは、粘土で使うヘラの痕跡だと思えますよ。

もう一人の弟子  
木原 一九七六年に竣工した『目神山の家』(注14)も先生にご指導いただいたものの一つです。  
荒木 目神山には石井修先生の自邸『回帰草庵』もあり、同年に完成していますね。

木原 石井先生も述べられていたと思いますが、この住宅を計画していた当時の目神山は人がほとんど住んでいない岩だらけの禿山でした。  
奥河 全体は木造に見えるのですが、外壁に石を貼られています。どのような構造なのでしょう？

木原 敷地が道路から上へ登る急斜面でしたので、斜面に食い込む地階は鉄筋コンクリート造で、地上階は木造のとしています。その鉄筋コンクリート造の外壁に石を貼っています。実は、設計での仕



木原 そうですね。最初は、古い町並みの残る地域に手掛けた『大和高田の家』(注12)でした。  
中澤 遠景写真で見ると瓦屋根が地域に馴染み、どれがこの住宅かわからないですね。

木原 森先生は、この計画で玄関の在り方とそれに続く和室とリビングの関係にこだわられ、プランが決まっています。賓客が多い家でしたので、相応の設えが必要だと考えられたのでしょうか。玄関はあくまで客本位の計画とし、そこで丁寧に挨拶ができる空間を追求されました。家族が使う内玄関も別空間として隣に設け、目に付きにくいように配慮しています。

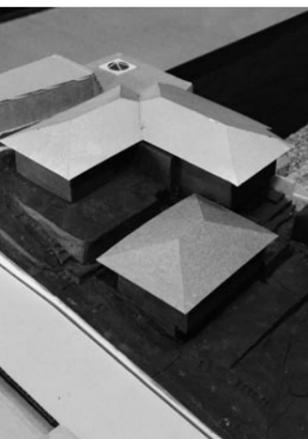
荒木 日本人の持つ人どうしの間の取り方を丁寧に押えられていることが、この玄関空間から感じ取れますね。

木原 森先生は細かな部分までは言及されませんが、先生から受け継いだ精神がそうさせたのかも知れませんね。駆け出しの頃でしたので、例えば正面に中庭が見えるような劇的な玄関を本当は造りたい気持ちも一方であったのですが、森先生の理念からこのような玄関の在り方になっていきます。

中澤 リビングが南向きで和室が東向きでL型平面になっていて、奈良盆地の古

上げは吹付けでしたが、掘削の際に良質の御影石が多くでてきたので、現場で変更して外壁に貼ることにしました。  
中澤 急斜面の敷地で、森先生とどのような計画を練られたのでしょうか。  
木原 私は斜面に沿う雛壇断面の住宅を提案したいと思っていましたが、森先生はそれでは各階の面積が小さくなり老後の上下移動が厳しいことを懸念されました。そのアドバイスを受けて、雛壇断面をあきらめ、大きく取ったワンフロアだけで生活できる住宅を計画しました。後に高齢になった施主から謝意を述べられ、作品性だけに重点をおかず営まれる生活にも視点を向けた住宅ができたことが今ではよかったですね。

中澤 当初の計画を断念されて結果的には良かったということですが、当時は残念だったのでしょうかね。  
木原 実績の少ない頃でしたので、自分の描いたイメージ通りに造りたいという気持ちは正直ありましたね。それに加えて従来の形式からも自由になりたいという気持ちも湧き上がっていました。通常、残月床という床の間は一段上げて造られますが、村野先生のご自宅では同一レベルに納められています。画期的なアイデアと評されましたが、私もこのように従来からの形式に捕らわれずに自由



民家によくある囲い造りのような建物配置になっていますね。

木原 この住宅では和室とリビングとが和洋のもてなし空間として用意されています。その二部屋にスムーズにアクセスできる合理的なプランとして、玄関はL型の交点部分に設けました。森先生は、フランス仕込みの無駄がなく、それでいて美しい表現を好まれていましたのでその影響が出ています。それと森先生の背後におられる村野先生の影響も、直接はご指導いただいていませんが、あると思いますね。村野先生の建築には、例えば金物や家具など、構成する全ての部分に建築家の息を感じ取れます。そのモノづくりの精神は、まるで体の中に溶け込むかのように感じられました。

イメージづくり  
木原 最も記憶に残っている計画は、一九七六年に完成した『河南町の家』(注13)です。大和棟のような急勾配屋根の住宅です。フランスやドイツの民家には、軒桁を通常の高さよりも少し上げて屋根を掛けることにより、屋根の中に空間を確保する手法があります。森先生はワンハーフと仰っていましたが、ここではその構成を取り入れ、二階を屋根の中に収めています。開口部は屋根の一部を跳ね上

につくりたいと考えるようになっていました。  
中澤 自由に表現された和室として、円窓床や霞床を上げられていましたね。  
木原 銀閣寺東求堂の書院では障子を開けると庭が掛け軸のように見える。例えば、茶室であれば、お茶の作法はそこでできないと当然だめなのですが、空間のつくり方は自由だということです。数奇屋の語源も好きのように、好みに合わせて自由に造った茶室にたどりつくそうですからね。  
中澤 茶室「皎庵(こうあん)」を改修されたときの座談会(注15)で京の名工・北村伝兵衛さんのことを本当の数奇者だと評されていましたね。

木原 『皎庵』は京都府長岡京市の『中野家住宅』(注16)にあります。森先生の生前に一度増改築を行い、そのときに北村さんが手掛けられたことを知りました。二〇〇八年、その茶室の屋根を安井清さんと一緒に改修し、その後『中野家住宅』は国の登録有形文化財として登録されました。  
中澤 安井さんとはどのような方なのですか？  
木原 安井さんは、京都の安井空工務店で桂離宮や待庵の改修などをはじめとする多くの数奇屋建築を手掛けてこられた



げることで確保し、ガラルの両開き雨戸を取り付けています。  
中澤 屋根が和風の入母屋なのに、雨戸が洋風の開き戸になっている。ユニークな組み合わせですが、調和していると思います。森先生の吉村家住宅の研究とフランス留学での経験が活かされているのでしょうかね。

木原 屋根の葺き材も洋風の天然スレートを用い、和洋をミックスさせています。この住宅では森先生から多くのことを学び、それを活かせたと思います。施主も熱心な方でしたので、森先生との打合せにも何度か同席されたんですよ。  
中澤 先程、仰っていたスケッチを見ながらの打合せですね。  
木原 そうです。森先生は、私が鉛筆で描いたスケッチの上を動線に沿って指でなぞって、イメージを膨らませておられました。スケッチが真っ黒になるまでね(笑)。村野先生も同じ方法でイメージされることもあると伺いました。森先生は綺麗に清書した図面ではイメージが広がらないと仰って、あまり好まれません。だから、ラフなスケッチを求められましたね。

中澤 今でいうとCAD図面だと完成されているような気がするのと同じですね。村野事務所では模型も粘土で作られました。  
方です。私と同じく森先生を師と仰ぐ一人で、私よりも前から森先生に神髄されてきました。二〇一〇年一〇月に安井さんは逝去されましたが、「わしが森先生の一の弟子でおまえが二の弟子や。先生の弟子は二人しかおらんやで。お前の新しいアイデアとわしの技術で一本の縄を編むように何か造ろう」とよく言っていただけたことを覚えていきます。

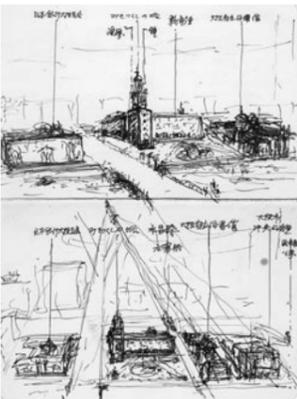
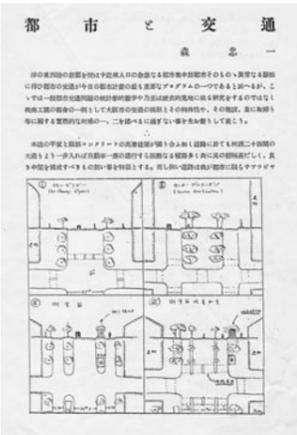
特級建築士  
森 そういえば、この家の増築をした際の模型は残してあるのですよ。  
木原 懐かしいですね。油土で作ったものですね。  
森 この模型を見た父親が道路からもう少し引きを取り、屋根の高さも抑えるようにと助言していましたね。  
木原 森先生は、打合せを行っている時に「おい、どうかな」と奥様に大抵意見を求められるんですね。そしたら一言二言、「これ、物干しどこにあるの」「玄関、遠いんじゃないの?」など。「今からお手伝いが少なくなる時代なので、その辺のところよく考えて配置しておかないと、使う方の身になって大変よ」って非常に的確な意見をポンと言われる。「やられたな」って(笑)。  
森 木原さんが言ったのかな、「おやじ

上段 上: 皎庵  
下: 森忠一氏(中央)と安井清氏(右)木原千利氏(左)  
中段 森忠一郎模型  
下段 旅行中の森忠一夫妻

注14 目神山の家「住宅建築  
1979年12月」建築資料研究社

注15 蘇生する北村伝兵衛の茶室「皎庵」座談会 しきたりにとらわれない新しい感性を現代に引き継ぐ「住宅建築2009年1月号」建築資料研究社

注16 中野家住宅 2010年、国の登録有形文化財に登録。江戸末期建設の主屋と土蔵、1951年建設の茶室が対象。



上段 都市と交通（建築と社会  
1936年2月）日本建築協  
会  
中段 上：大阪旧市庁舎  
下：御堂筋線本町駅  
（1960年代）  
下段 森忠一氏スケッチ（大阪市  
「市庁舎建設アイデア募集」  
への応募案）

注17 建築的遺産の継承「村野藤  
吾著作集第一巻」鹿島出版会  
注18 近藤正志 1916年岡山生  
まれ、1937年芝浦工業専門学校卒  
業、1940年海軍建築部、1943年村  
野建築事務所

よりも母親のほうが建築家だ」って。  
木原 そう、特級建築士だってね（笑）。  
森 また父は旅行にほとんど母と一緒に  
行っていました。母は建築のことは何も  
分からないのですが、いつも一緒に行っ  
てましたね。村野先生もよく奥様と一緒  
に行かれてました。そういうことをうち  
の父もしていたのでしようね。

### 御堂筋と中之島

木原 御堂筋の話もよくされていていま  
した。シャンゼリゼ通りなどのヨーロッパ  
の車社会を見て帰っておられていたか  
ら、日本の将来を考えて言及されていた  
んですね。飛行場を造るのかと道幅の広  
さを擲論されていた時代に、将来の車社  
会を見据えた計画をしないとけないと  
提言されていました。

森 それは「建築と社会」一九三六年二  
月号の「都市と交通」というタイトルで  
発表していますね。御堂筋は、車道が本  
線と側道とに分離帯で分けられていま  
すが、昔はその分離帯に地下鉄の出入り  
口があったんです。だから歩道から地  
下鉄に乗るには必ず側道を渡る必要が  
ありました。この人が車道を横切る行為  
は、将来交通量が増える危険なため、  
分離帯まで歩道を広げるか若しくは出  
入り口を歩道へ移設するかが必要だと

しいです。村野先生ほどのデザインがで  
きる方でも迷われるのですね。そんな時、  
一番信頼おける森先生にスケッチを見せ  
て意見を求められていたようです。  
中澤 想像ですが、何か良い意見が返っ  
てくるという信頼感があったのでしょ  
うね。

木原 森先生は、フランスで生活しな  
がらヨーロッパの文化を見ていますで  
しょう。フランス語も堪能だったので書  
籍からも情報を得ることができると。村野  
先生の判断材料としては、貴重な視点に  
なっていたはずだと私も想像している  
のですよ。

中澤 『建築と社会』一九四九年五月号  
で、設備に関する座談会（建築に付帯す  
る諸設備座談会）があり、この時の司会  
を森先生が務められています。この中で  
もフランスでの事例などを紹介されてい  
ましたから、技術などはいち早く取り入  
れることは可能だったと思います。先程、  
森先生は村野先生を補佐することに徹さ  
れたという話でしたが、村野先生も森先  
生のそのような意思を尊重していたから  
こそ、あえて表舞台に出さなかったのか  
も知れないですね。

森 事務所の経歴書を見ると、村野先生  
の経歴の次に森忠一の経歴が掲載されて  
おり、他の所員は出てこないんです。そ

述べています。

中澤 そんな危険な場所に入入り口が  
あったのは驚きです。現在の交通量から  
考えると適切な意見ですね。

森 近年になって地下鉄出入り口は歩道  
へ移設されていますが、将来は側道も廃  
止して歩道を広げることも検討している  
ようですね。都市も建物も時代に合わせ  
て新陳代謝していくことは必要なことだ  
と思います。

荒木 近い将来に到来する車社会に対す  
る提言ですね。

森 中之島の保存に関しても積極的でした。  
村野先生もあれ以上のものをつくる  
ことの困難さを言及されています。（注  
17）大阪市庁舎の建て替えの際、指名コ  
ンペに先立ちアイデアコンペが開催され  
ました。その時に父も個人的に応募し、  
「みおつくしの鐘」の鐘楼を残すデザイ  
ンを提案していましたね。時々、鐘を鳴  
らしたというニュースが現在も流れます  
が、道からは見えないのは少し残念です。  
デザインが古いかという次元の話ではな  
く、あの鐘楼は大阪の原点だから残すべ  
きだと言っていました。事務所の仕事で  
忙しくしていましたが、何かを伝えな  
いといけないと思っていたのでしようね。  
だから、入選するとかの問題ではなかつ  
たと思います。

の一方で、村野先生の記述の中には、他  
の所員の名前は時々出てくるのですが、  
森忠一の名前が一切出てこない。これは、  
森忠一の自分を消し去るという美学を尊  
重していた証だと思ふのです。

### 一生続いた良き関係

森 一九八四年に村野先生がご逝去さ  
れた際に父は退職を申し出たのですが、  
その後も阿倍野の事務所には席を残し  
ていただき、八五歳まで勤めさせていた  
だきました。晩年は公的なことから完全  
に手を引いていましたが、それでも  
来て下さいと当時の代表だった村野先  
生のご子息である村野漾さんが仰って  
くれました。その取り計らいには非常に  
感謝しています。父の体が弱りだした  
時、母親と私で「事務所を退かせても  
らったらどうか」ということを提言し、  
一九九四年の七月、漾さんに退職の願  
いに行きました。

木原 村野先生も幸せだったと思うし、  
森先生も当然幸せだったと思います。森  
先生は村野先生を補佐することに徹し、  
それを一生貫かれたのだと思います。  
荒木 村野先生も森先生の気持ちを尊重  
しておられたからこそ、良い関係が一生  
続いたのだと思いますね。  
森 そうでしょうね。村野先生から届い

荒木 コンペは森先生が六九歳のときに  
開催されたのですね。建築単体の話では  
なくて、都市の中で建築がどうあるべき  
かという話ですね。

木原 中之島の空間を守りたいとか、吉  
村家住宅を残したいとか、そういう思  
想をいつまでも大切に持ち続けていらつ  
しゃったことは素晴らしいことだと思  
いますね。

### 補佐役に徹するという美学

中澤 『村野建築事務所』から『村野・  
森建築事務所』に改称された経緯などを  
教えていただけますでしょうか？

森 私は、村野・森建築事務所に在籍し  
ていた訳でもなく、父も多くを語らな  
かったため、真意は分かりかねますが、  
よく言われる共同経営者やパートナーと  
いう対等な立場ではなかったことは確か  
です。おそらく、村野先生の不測の事態  
に備えて社会的な責任の継承者を表明し  
ておく必要があり、それが森忠一だった  
のではないかと推測しています。父親は  
よく、「自分にもしも何かあったときに  
意思や責任を受け継いでくれる者が誰な  
のかを決めておきたい」と言っていました  
から、村野先生との関係の中で立場を  
理解し合っていたのだと思いますね。父  
親自身も対等な気持ちなんてさらさら無

た手紙には、私の母親に対する労いの言  
葉などもつづられていました。私宛の手  
紙を頂いたこともあります。そんな心遣  
いがあり、大切にされていることは実感  
としてあったでしょうね。一九九九年、  
この自宅で昼食後に昼寝をしていた父は  
静かに息を引き取りました。森忠一、享  
年九〇。幸せな人生だったと思います。

二〇一三年四月一八日森忠一邸にて

本文中以外の森忠一氏の対談及び  
関連記事については、以下のものが  
挙げられる。  
森忠一/岡橋作太郎新春対談 軽  
自動車と茶室—人間的要求に応える  
方法—[ひろば1973年1月号]近畿  
建築士会協議会  
特集 名建築家の陰に名補佐官あり  
—トップとNo.2の「あうんの呼吸」が  
心作を生む「日経アーキテクチュア  
1998年7月27日号(通巻617号)』  
日経BP社

上段 森忠彦氏  
中段 木原千利氏  
右下 村野藤吾氏と森忠一氏  
撮影 上段・中段：田籬哲也

森忠彦  
1939年大阪府生まれ  
1962年早稲田大学理工学部建築学  
学科卒業  
1962年株式会社竹中工務店入社  
大阪本店 設計部・営業部勤務  
2000年同社、定年退職

木原千利  
1940年大阪府生まれ  
1972年木原千利建築設計事務所  
設立  
1995年木原千利設計工房に改称  
2002~2010年  
関西大学建築学科非常勤講師

聞き手  
中澤 博史  
1969年大阪府生まれ  
1992年 近畿大学理工学部建築学  
科卒業  
1992年 株式会社大建設  
1998年 中澤建築設計事務所設立

森本 雅史  
1974年 三重県生まれ  
1998年 京都工芸繊維大学大学院  
（博士課程前期）修了  
1998年 株式会社東畑建築事務所  
2009年 森本雅史建築事務所設立

奥河 歩美  
1976年 兵庫県生まれ  
2001年 神戸大学大学院（博士課  
程前期）修了  
2001年 共同設計株式会社  
2007年 O+O architects  
2010年 空間計画株式会社

本特集責任編集人  
荒木 公樹  
1971年 大阪府生まれ  
1995年 神戸大学工学部建築学科  
卒業  
1995年 建築環境研究所  
2003年 空間計画設立



木原 聞くところによると、そのほかに  
迷ったときの相談事とかも書いてあるら  
すね。

森 村野先生が出張や視察で事務所を離  
れておられる時に森忠一に宛てた手紙  
が、大量に残されていました。所員への  
指示内容が、その時手元にあったであ  
るう様々な紙に非常に細やかかつ大量に書  
かれています。村野藤吾という一人の巨  
星の建築にかける情熱やものづくりの原  
点だけでなく、森忠一の役割も垣間見る  
ことができます。

中澤 手紙で森先生を介して指示を出さ  
れているということは、日ごろからそう  
いう形だったということでしょうね。

# シトロエンと私

森 忠一



前川國男氏のジャガーに対する愛着をはじめとして、建築家と車の関係は切り離せない。森忠一氏による原稿はわずかしか残されていないが、氏の文明観や人間観・教育観、そして建築観がよく表れている。半世紀前の創刊間もないCAR GRAPHIC 1962年10月号への寄稿文を、ここに転載する。  
左写真：シトロエン11CVとAMI-6に囲まれる森忠一氏

昭和のはじめ、私は京都でフランス語と建築学を学んでいた。その頃はまだ自動車に対して何の経験も興味もなかったが、ある時フランスの雑誌でシトロエンという車がフランスの探検隊に使われたということを知った。

それはシトロエン会社設立者アンドレ・シトロエンが多くの資金と自動車を提供して一九二四年サハラ砂漠を踏破しアルジェリアからケープタウンに到達させたこと。更に一九三一年、翌三二年、ゴビ砂漠を横断し、中央アジア探検隊を送ったことで、今日、この二つの自動車による探検隊は前者は黒い巡洋艦隊、後者は黄色い巡洋艦隊として、その記録映画と共にシトロエンの名を不朽にしている。

アンドレ・シトロエンは自動車を単に都市内の交通のみでなく、馬やらくだの代用として鉄道に代る長距離旅行を対象として考えているのである。この考え方が今日の前輪駆動DS19や全輪駆動SAHARA(2×2CV)の出現の基礎的考えとなっている。

私が一九三二年、一九三三年の二年間、パリの美術学校の建築科に席をおいていた頃、フランスにはイスパノスイザ、ドラージュ、ブガッティ等の高級車、それにシトロエン、プジョウ等の中級車が多く学生の私には高嶺の花だったので四気筒850ccのローザンガール(ROSENGART)と称する小型カプリオレの中古車を手にした。

フランスの国内はもちろんヨーロッパの各国を駆けめぐり、遠くバルカン半島よりギリシャへと古建築を見ながら、遂にはパ

五湖めぐりをして静岡を経て鈴鹿峠を夜半に越して早朝神戸の自宅に帰った。これは丸三日間に約一二五〇キロ走ったことになる。それより前に有料道路として完成前の日光いろは坂を上ったり、関西に於ては舗装されていない高野山、又大台ヶ原へのドライブと登山道路が開通すれば必ず一週間以内にシトロエンで登らないと何だか気がすまない。

昨年の夏、早稲田大学の学生であった長男が二人の学友と共に約三週間の北海道一周のシトロエン旅行に出た。この若人達は運転免許をとって未だ実地の経験が浅かったのだが、北海道は交通量が少ないのと、たとえ一部の悪路があってもシトロエンならば何とかなるだろうという多少の自信があった。途中キャンプ等をして学生らしく費用のいらぬ旅行をして皆元気で帰って来た。車を船に乗せて渡海することも貴重な経験の一つであろう。

この車は主として山登りと長距離旅行のために九年間に二〇万キロ走った。その間シリンダー二回取替、クラッチディスク数回取替、ユニバーサルジョイントの取替等純正部品は甚だ高価で、最近では在庫不足で弱るが、私はつとめて国産のいい加減な代用品の使用をさせている。結局はその方がより高価のものになることがある。

フランス本国又は植民地のシトロエン代理店ではエンジンの一部分を更新費を以て新しい性能のものとして六ヶ月の保証付きサービスをしているから安心して修理に出せる。一九五六年四月にアメリカから、建築の視察の帰路久振りにパリに立寄った。当時はユネスコ会館が建設中で新しい変った建物が見られなかったが、その

リーアテネ往復約五千キロという、小型車による大陸旅行」となってしまった。

二年間で約四万キロのドライブを終えて一九三四年の帰国予定の秋、フランスの自動車界に一大旋風が巻き起った。それは、シトロエン社によるトラクション・アヴァン(TRACTION AVANT)所謂、前輪駆動車……従来の後車輪による押し車に対して、前車輪による引き車の出現であった。革新的な合理性に対する賛否両論でフランスの自動車界をわきたたせたのである。

昭和一六年、同二〇年迄、私は軍務で当時のフランス領インド支那で軍の建築に従事していた。そこはさすがにフランスの植民地だけあって幹線道路は立派に舗装されていたが、雨期には一歩奥地に入るとぬかるみの道。我軍が内地で徴用して持ってきたシボレーやフォードのタクシードの車では、星のマークをいかめしくつけてあってもどうにもならないことがしばしばあった。

こんな時、砂漠やジャングルのために作られたとでもいべき前輪駆動のシトロエンが大活躍をした。その後、仏印の土木局よりシトロエン7CVを貸与された私は北部仏印の主都ハノイを中心に各所の建築現場に通うため毎日平均一五〇キロ位走り、時には急用で南部仏印の主都サイゴンの司令部迄、一八〇〇キロ(青森・長崎間に相当)を一泊二日(運転時間二四時間、平均75km/h)で行ったこともあった。五ヶ年間何回となく爆撃に会い生死を共にしたこのシトロエン7CVを現地に残し、終戦の翌春私はさみしく病院船で帰国したの

の実績をもつ、2CVの425ccのエンジンを850ccに増し、ユニバーサルジョイントをダブルにして、よりスムーズにカーブを切れる様に改造され、ボディはDS19と同様な構成をしている。以前から使っている11CVBLより乗心地よく、ガソリンは半分で運転はずっと楽でこれ以上望むことはない。未だ四〇〇キロ走ったばかりで正確なロードテストの結果などをお伝え出来ないのを残念に思う。

以上私は自分の自動車歴とシトロエン車との関係を単に時代を追って若干のシトロエン車の性能の説明を加えたにすぎないが、最後に私の抱く自動車感に就いて日頃考えていることを思いつくままに述べて見よう。

自動車のエンジンの位置とその駆動方式は、ジープの全輪駆動とシトロエンのサハラと称するその前後に水平二気筒のエンジンを乗せて行う全輪駆動を除くと、大要三型式となる。

シトロエンやDKWの如く、エンジンが前にあって前輪を駆動するもの。普通の車の如くエンジンが前にありながら長いプロペラシャフトで後輪駆動をなすもの。又ルノーやフォルクスワーゲンの如くエンジンを後部に置いて後輪駆動をなすもの……である。第一型は前車輪で車全体を引張って行く車で、普通フロントドライブと云われている。このような車は二〇世紀の初頭にアメリカにてクリスチー氏(WCHRISTIE)に依って発明された。一九三五年頃アメリカの名車コード(CORDB)として出現したが当時の世界的不況のためこの高価な車は生産中止と

である。

昭和二九年の春、一部の外車輸入のあつたとき、たまたま我々の事務所のビルディング建築施主がシトロエン並びにパナール等の何れも引き車(所謂前輪駆動)の大阪に於けるディーラーをしていた。

シトロエンを見た瞬間、私は八年前に仏印でわかれた筈の車が日本まで私を追って来た様な気持になった。幸か不幸かこれが車の話であったため、家内は山内一豊の妻の様に金は出さなかったが、この一課税馬力(排気量191cc)を買うことにし

ぶしよ同意してくれた。これは仏印で愛乗したもののより強力なエンジンとなり、今までコンチネンタル型として外に出ていたスベアタイヤがトランクの内部に納まっている点だけが外見上の大きな変化であった。

この車は正式にはシトロエン11BLと称し車中168kg、全長4.45m、自重1,080kgでホイールベースが約2.90mで現在の我が国の小型自動車の規格内にあつてホイールベースの点ではアメリカ産の大型車に匹敵している。

戦後の若い人達はどう感じられるか知らないが、三〇年以前頃は馬力よりもホイールベースの長さをよく自慢したものであった。以上の規格から御推察願える様に、この車は屈曲が多くて道中の狭い我国の山間道路に適することは、自分としても既に前述の通り戦時中仏印に於て体験済みであったから友人達の、オペラを見に行く時の型の車で山走りは無理ですよ、との折角の忠告もきかず昭和二九年七月早朝西宮の自宅を出発、乗鞍山頂にて一泊。翌日は上高地、松本を経て山中湖泊り。更に三日目は富士

なった。

以上の如くエンジンの配置と前輪で引張るか又は後輪で押すかの差異によつて各種の利害損失がある。この引きと押しとの賛否両論には専門家の間に多くの意見の対立がある。しかし私は建築家として常に物の配置とか、又材料又は構造物が引張られる場合と押される場合との差異を研究している。物を引張るにはロープでよいが押す場合にはより太い棒が必要である。又薄い鉄板は引張りには耐えるが押される力には何か強い心棒を必要とする。

この事実より所謂前輪駆動こそ押し車(後輪駆動車)よりも道の進路に対して最も安定しスリッパの心配なく、自重が少いから、エンジンも小さくより経済的と云える。私が時々シトロエンでなければ自動車でないと思つていたり非難をうけることがある。しかしこれは自動車の安全性と経済性に見地から前輪駆動が優位であつて、シトロエンがその代表的存在であることを誇張しているにすぎない。

数年前までは前輪駆動車は主としてフランス、ドイツ、スウェーデン等の少数の国で製作されていたが、一昨年はランチャがイタリア最初のフロントドライブを出した。昨年は、伝統を尊ぶ英国でオースチン、モリスが、フランスでも後置エンジンで我国でも著名なルノーが、前輪駆動の新車種を夫々加えた。

一時話のあつたフォードの小型カーデイナーも前輪駆動の噂があつたが、今後ドイツで製作される場合には如何なる形式をとるか予断は許されないが、最近特にシトロエンの処に各国から来訪する同好の氏が増加したことは事実であるらしい。

今年の二月下旬、その行方が気になって、神奈川県川崎市にある小さな図書館に立ち寄った。昨年二〇一二年十一月、神奈川県教育委員会は、切迫する財政上の理由から、突然、県立図書館二館の閲覧と貸出し業務を廃止する方向で検討していると発表、この建物の存続自体も危ういことが新聞でも報じられた。そこで、どんな建物なのか、一度は見ておきたいと思ったのである。

戦前に県立の図書館を持たなかった神奈川県には、戦後もない時期に二つの図書館が相次いで建てられていく。その最初が、指名コンペで前川國男が一等に当選し、一九五四年、横浜港を見下ろす紅葉ヶ丘と呼ばれる小高い丘の上に、神奈川県立音楽堂と一体の建物として竣工した神奈川県立図書館である。そして、続いて、四年後の一九五八年に、川崎駅から市役所前へと伸びる道路をさらに海の方に歩いて約十五分、川崎球場や競輪場、競馬場などが集中し、およそ図書館とは場違いな一角に建てられたのが、この神奈川県立川崎図書館だ。

前者は、東洋一とその音響の良さが絶賛された音楽堂との組合せであり、戦後のな公共建築の姿を初めて形にした建築として一九五四年度の日本建築学会作品賞を受賞し、誰もが知る存在となっていく。一方、後者の川崎図書館は、さほど知られることもなく、これまで静かに歴史を重ねてきた。設計者は、創和建築設計事務所を主宰していた横浜の建築家、吉原慎一郎（一九〇八～二〇〇九年）である。今回の新聞報道を受けて、あちこち調べたものの、残念ながら作品集も発行されておらず、唯一、翻訳書（『都市構造の論理』彰国社一九七四年）の奥付に掲載された略歴しか見つけることはできなかった。その記載によれば、吉原

は、一九二九年に横浜高等工業学校（現・横浜国立大学）の建築学科を卒業後、ニューヨークのスタンダード・オイルに勤め、その後、華北交通社を経て、北京で創和建築設計事務所を開設、戦後の一九四六年に、横浜で創和建築設計事務所を設立している。また、彼は、前川國男の神奈川県立図書館・音楽堂や村野藤吾が当選して建設された横浜市庁舎（一九五九年）などの指名コンペの候補者にも選ばれている。おそらく、地元横浜を代表する建築家として、地

## 記憶の建築 松隈 洋

神奈川県立川崎図書館 1958年  
知的インフラとしての図書館



正面外観



3階の閲覧室

コの字型をしたプレキャスト・コンクリートのパネルで覆われている。また、一階は外壁面が少し奥へと入り込み、そこに男鹿川産の玉石が貼られ、上部の工業製品のな表情と対比的に扱われている。それにしても、前川の図書館とは対照的なこの閉じた外観はどこから発想されたのだろうか。設計の担当者は、「この敷地は図書館敷地として聴覚的にも、視覚的にもまったく不適當である。この不適當性を建築によって克服すべく新しい方式を工夫しなければなら

らない。」（『新建築』一九五九年一月号）と記している。たしかに、目の前には川崎球場や競輪場があり、交通量の激しい道路にも面している。隣接する駐車場に出入りする車の騒音も大きい。また、窓からの眺めにしても図書館に相応しいとは言いがたい。こうして、建物の開口部を極力減らしつつ、外壁を二重にすることによって、外部騒音の影響を軽減する方法が考案されたのだ。三階に設けられた図書館の閲覧室は、トッ

しく、完全空調によって室内の環境を一定に保つ方式も採用された。外観のデザインはこのような図書館としての落ち着いた雰囲気を求めて創出されていたのである。そうしてできた簡素な三階の閲覧室には熱心に調べものをする人々の姿があった。また、二階の展示コーナーには、今回の廃止の動きを受けて、壁一杯に『神奈川県』の特集記事が掲示されていた。それらの記事からこの図書館のユニークな特徴も見えてきた。背景には、工場地帯に隣接する地域性を逆手に取って活かそうとする草創期の職員の努力があったのだろう。「科学と産業の情報ライブラリー」と案内パンフレットに謳われているように、ここには産業史や技術史の調査研究にとって有益な社史や経済団体史、労働組合史などの貴重なコレクションが充実して集められており、その数は一万六千冊にもなるという。また、科学技術関係の雑誌類や社内技術報告書なども収集され六千四百誌も所蔵している。日本にも、これほど特化した情報支援型の図書館があったのか、と同時に、閲覧と貸出し業務を廃止するという計画がこのまま進めば、ここまで蓄積されてきた貴重な社会的役割が消えてしまうだろうと思えた。しかし、最新情報によれば、この図書館を支援してきた神奈川県資料室研究会の働きかけや、急ぎよ結成された「神奈川県立図書館を考える会」の活動もあって、三月、県は廃止方針を撤回し、川崎図書館の臨海部への統合移転を検討していると発表した。戦後に生まれた自由に閲覧でき、貸し出し可能な図書館はどこへと向かうのだろうか。この図書館はその未来を見守っている。

松隈 洋

京都工芸繊維大学教授、博士（工学）。一九五七年兵庫県生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。二〇〇八年十月より現職。

# 第5回 建築人賞発表

主催：公益社団法人大阪府建築士会



建築人賞記念盾「未来へ！」  
ガラスアーティスト 三浦啓子作

### 審査総評

建築人賞審査委員長 石堂 威

建築人賞が第五回を数え、ようやく御役御免となったところで、これまでの審査を少し振り返りながら総評を書かせていただくと思う。

最初に審査員のお話をいただいたとき、現地審査があるものだと思っていたが、あくまでも「建築人」の誌面上のみからの判断で、ただし大阪府建築士会会員のメンバーがサポートするということであった。現地審査がなくて可能だろうかとかや疑問に思いつつ、専門誌の編集を長くやってきた経験を生かしてみようと前向きに考え、お引き受けした。しかし実際には、掲載のスペースが一／四ページから二ページののままであり、一／四ページのものは、経験上の想像力を加えてもさすがに判断するには材料不足で、すべての作品を同一の審査レベルに持つていくのに大いに苦労した。

それはともあれ、審査を終えたあと、やはり結果に対して気になりだした。そこで建築士会の担当者にお願ひして、選出した作品を自主的に確認したい旨を伝えて、設計者に連絡を入れてもらい、見せていただくことをしてきた。この確認作業は審査員の責任を果たすという意味で必要なことだっただと思っている。昨年の第四回は第二次審査でなかなか最終判断ができずにいたところ、結論は確認後でもよいといわれて、それに従った。第五回の今回は第二次審査を大阪で行うこととなり、ならば審査の前に確認できるものは見せていただくようお願いした。第二次審査用に設計者に用意し



審査委員長 石堂 威

1942年 台北市生まれ  
1964年 早稲田大学第一理工学部建築学科卒業  
新建築社入社  
1980年～ 「新建築」編集長(1991年まで)  
1985年～ 「住宅特集」創刊編集長(1987年まで)  
1992年～ 「GA JAPAN」創刊編集長(1995年まで)  
1996年～ 都市建築編集研究所 設立 代表  
2008年～ 第1回から現在まで建築人賞審査委員長

建築人編集人代表 米井寛

### 「建築人賞」の趣旨と目的

大阪府建築士会の会報誌「建築人」は1964年より毎月刊行され、2013年4月号で586号目の発行となりました。会員に向けて情報提供を行うとともに作品発表の場を設け、建築にかかるとともに技術及び文化の普及・発展に寄与することを目的としてきました。

「建築人賞」は2009年(平成21年)に創設され、今年で第5回目を迎えました。「建築人」の「Gallery」で掲載された作品を審査対象とし、それらの中から特に社会・芸術・文化・技術面で優れた作品を顕彰することを目的としています。審査対象は、建築地や建築種別を問わず、本会の会員のみならず、近畿全域で活躍する建築士に門戸を開いています。審査については、日本を代表する数々の建築雑誌に携わられてきた石堂 威氏に、第1回から第5回まで5ヵ年にわたってお引き受けいただきました。石堂氏には、建築人賞が本会の主催する重要な賞のひとつとして定着するまでに育てていただき、感謝いたしております。「建築人」には、大阪さらには近畿地区が担うべき文化や伝統を伝えていく役割があります。「建築人賞」が建築士の登竜門となり、建築文化の発展に寄与し、大阪・近畿から全国へ発信する役割を担い続けられるよう、「建築人」の編集に携わる私たちはこれからも引き続き努めてまいります。



【選評】  
場所は千里中央、中国自動車道と新御堂筋の交点の北西側にあって、前方に視線を遮るものはない。この眺望を生かすように、東面と南面を連続させ、反対側には上広がり光庭を地下階から設けて、両面からの採光で開放的で明るい執務空間を生み出している。この東南側の大きなガラス面を横ラインのアルミルーバーが美しく引き締め、天井は方向性を消した照明器具、自然対流と外気の併用によるハイブリッド空調、また光庭の各階にミストの装置と緑を配してオフィス環境を高めている。「健康な未来のオフィス」をテーマに、上り下りしやすい非常階段までもが企業イメージを高めるように北立面を飾っているが、自社ビルを突き詰めた好例といえるだろう。



建築人2012年10月号掲載

建築主／大正製薬株式会社  
設計者／竹中工務店  
施工者／竹中工務店  
建築位置／大阪府豊中市新千里西町1丁目1-5  
竣工年月／2012年7月  
用途／事務所  
構造・規模／S+SRC造  
敷地面積／2,535㎡  
建築面積／1,268㎡  
延床面積／11,966㎡  
写真／古川泰造



【選評】  
油圧ショベルやブルドーザーの開発生産を担うコマツにふさわしく、およそ70m×400mの平面、六層の四周を同寸のプレキャストコンクリートのグリッドフレームが回り、質実剛健のイメージをつくる。内部は、中央部の長手にコアが配され、その両脇を執務ゾーンとする明快なオフィス。二階から上の中央コア部のセンター部分はコミュニティションスペースとして位置づけられ、各階に設けられた吹き抜けを通して、屋上のトップライトからの光が各階に届く。光のほか、通風、社員に視線も動き、上下階の風通しにも効果をもたらしている。工場正門からテクニカルセンターの間にビオトープも整備され、ファクトリーパークへの夢も感じられる。



建築人2012年1月号掲載

建築主／株式会社 小松製作所  
設計者／KAJIMA DESIGN  
施工者／鹿島・前田建設工業・間組 共同企業体  
建築位置／大阪府枚方市上野3丁目500-1  
竣工年月／2011年3月  
用途／事務所  
構造・規模／SRC造・RC造 一部S造 地上6階  
敷地面積／387,191.63㎡  
建築面積／2,761.68㎡  
延床面積／14,152.62㎡  
写真／島尾 望 (SS東京)



【選評】  
南北が水路と道路に挟まれた細長い敷地に立つ六戸の賃貸長屋住宅。設計者が志向したものは事業計画上有利な単身者専用賃貸ではなく、新たな「向こう三軒両隣」。外皮を大波スレートとガルバリウム鋼板に包まれた長屋は、幅三・一八五m、二階建て、隣り合う住戸を半分ずらし、全住戸に専用の庭を設けている。計画上のポイントには、住人同士の交流を促すように、ポーチとテラスが交互につながり、視線が通る軒下路地空間をあえて設けたこと。住民の子供たちが、ルーブルづくりを通して交流が深まることを期待したい。道路に面して入口を持つ三戸の一階床は土間仕上げで、多様な生活像が描かれる。意欲的な試みを応援する社会でありたい。



建築人2012年10月号掲載

設計者／石井良平建築研究所  
施工者／林建設  
建築位置／大阪府四條畷市  
竣工年月／2012年2月  
用途／長屋  
構造・規模／木造 地上2階  
敷地面積／431.93㎡  
建築面積／217.38㎡  
延床面積／426.72㎡  
写真／多田ユウコ

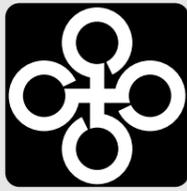


【選評】  
敷地は南面の道路より1mほど高い。その高低差を利用して車庫をとり、その上に和室がある。道路からの視線をこの和室が受け止め、背後にある日常の開放的な生活空間を守っている。和室は茶室ではないが、中庭にしつらえた待ち合い、飛び石、露地の風情、にじり口、窓の仕掛けから花鳥風月を十分に楽しめるようになっていく。中庭は日常のスペースと密着して、吹き抜いた食堂、その左右にある茶の間や居間、そして玄関ホールに開放感と愉楽を与えている。それを保証しているのが各所にほどこされた設計者の細やかなデザイン。和室の西側に大きな水盤が設けられているが、にじり口辺りから見る夕刻の風景は格別であらうと想像される。



建築人2012年8月号掲載

設計者／木原千利設計工房  
施工者／SEEDS・CASA  
建築位置／奈良市  
竣工年月／2009年8月  
用途／住宅  
構造・規模／木造 一部RC造 地下1階 地上2階  
敷地面積／404.40㎡  
建築面積／121.00㎡  
延床面積／206.16㎡  
写真／松村芳治



# 一般財団法人 大阪建築防災センター 建築確認検査機構

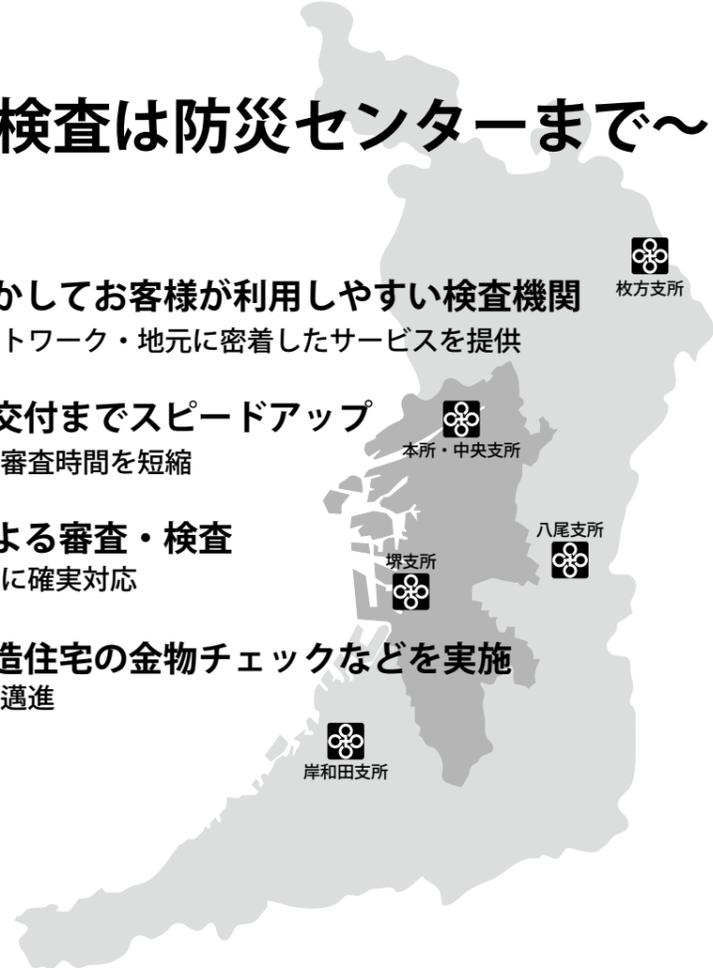
～大阪府内の確認・検査は防災センターまで～

**親切** 支所ネットワークを活かしてお客様が利用しやすい検査機関  
府内をカバーする支所ネットワーク・地元に着したサービスを提供

**迅速** 事前審査から確認申請交付までスピードアップ  
事前審査制度を採用により審査時間を短縮

**確実** 経験豊富なスタッフによる審査・検査  
職員一同、お客様のご要望に確実対応

**丁寧** 安全性確保のため、木造住宅の金物チェックなどを実施  
安全・安心な建物づくりに邁進



## 【業務範囲】

- ◆ 確認と検査
  - ① 高さ 60m 以下の全ての建築物
  - ② 工作物及び昇降機その他の建築設備  
(ただし令 138 条 2 項のうち、第二号及び第三号の遊戯施設を除く)
- ◆ フラット 35  
証券化事業に係る設計・現場検査 (戸建住宅及び共同住宅・中古住宅)
- ◆ 住宅瑕疵担保責任保険  
保険申込受付及び現場検査 (当財団が建築確認を行ったもの)

## 【住宅性能評価業務】

一般財団法人 大阪住宅センター分室 (建築確認検査機構同フロア内)  
電話：06-4790-9717 (ダイヤルイン) FAX：06-4794-8272

## 【本所・支所】

本所 (中央支所)	〒540-0012 大阪市中央区谷町 3-1-17 高田屋大手前ビル 2 階	電話：06-4794-8270	FAX：06-4794-8272
枚方 支所	〒573-0027 枚方市大垣内町 2-5-7 宮村第 2 ビル 5 階	電話：072-861-5088	FAX：072-861-5089
岸和田支所	〒596-0054 岸和田市宮本町 27-1 泉州ビル 3 階	電話：072-429-3660	FAX：072-429-3661
八尾 支所	〒581-0003 八尾市本町 1-4-1 YLB タニムラビル 3 階	電話：072-998-0530	FAX：072-998-0882
堺 支所	〒590-0079 堺市堺区新町 3-7 STC ビル 4 階	電話：072-238-8282	FAX：072-238-8281

## 【業務時間・休日】

本所・支所 9:00～12:00 13:00～17:00 (受付は16:00まで) (土曜、日曜、祝日、年末年始等は休み)

## 【事前相談】

事前相談を受け付けております。  
建築を計画されるときはお気軽にご相談ください。  
また、ご意見・ご相談などは  
E-mail：kiko@okbc.or.jp  
でもお受けしております。

【URL】 <http://www.okbc.co.jp>

【E-mail】 [kiko@okbc.or.jp](mailto:kiko@okbc.or.jp)



大山崎の家  
設計者／マニエラ建築設計事務所  
構造設計者／木構造建築研究所 田原  
施工者／加藤組



滋賀銀行名古屋志賀寮  
設計者／竹中工務店大阪一級建築士事務所  
施工者／竹中工務店



岩倉の家  
設計者／吉村篤一建築環境研究所  
施工者／片山工務店



帝塚山東の家  
設計者／井上久実設計室  
施工者／伊藤嘉材木店

## 新審査委員長決定

### 古谷 誠 章 氏

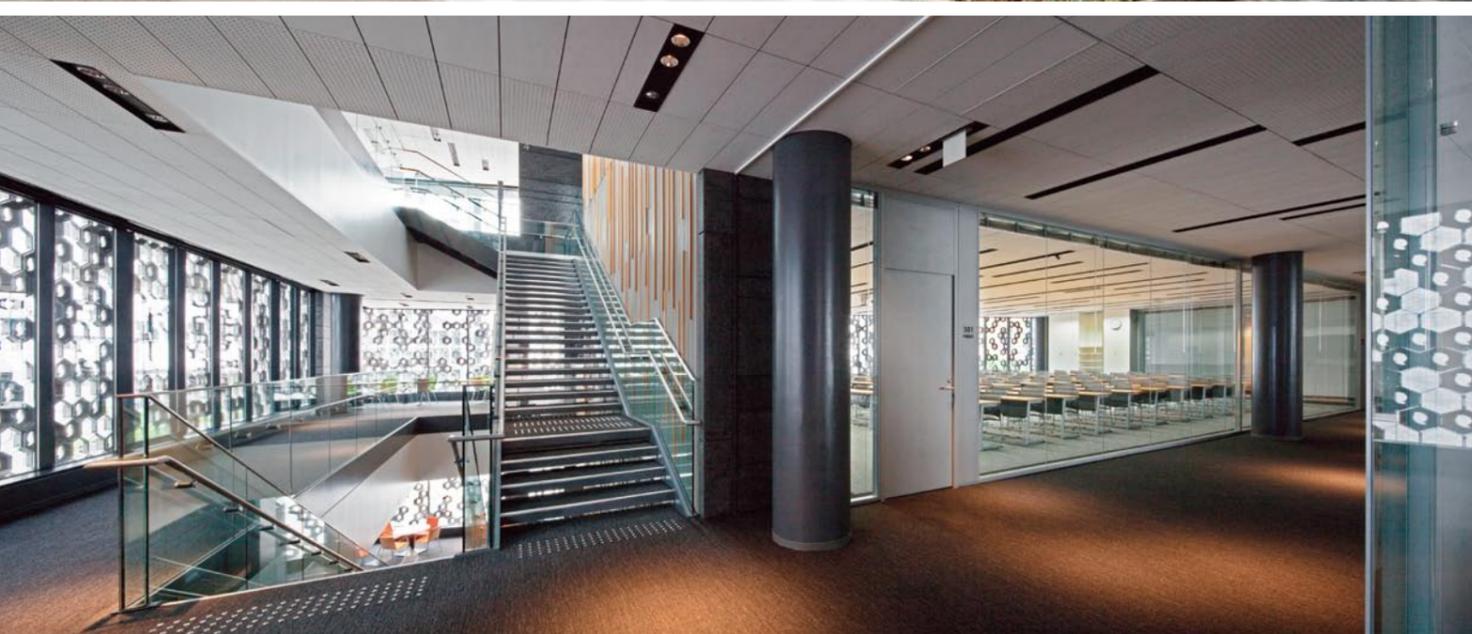
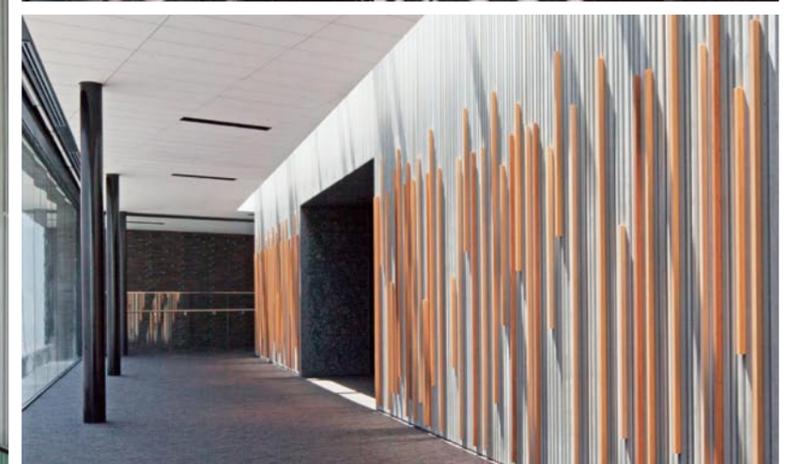
第 6 回 建築人賞より、審査委員長として古谷誠章先生に  
就任して頂くことになりました。



1955 年生まれ。早稲田大学理工学部建築学科卒業。同大学院博士後期課程修了。早稲田大学助手、近畿大学工学部講師を経て、1994 年に早稲田大学助教授に就任。1997 年より現職 (教授)。1986 年から文化庁建築家芸術家在外研究員としてスイスの建築家マリオ・ボッタの事務所に在籍。1994 年に八木佐千子と共同してスタジオナスカ (現 NASCA) を設立。「時とメルヘン 絵本館」日本建築家協会新人賞 (1999)、「やなせたかし記念館」、「會津八一記念博物館」、「ZIG HOUSE / ZAG HOUSE」、「近藤内科病院」、「高崎市立桜山小学校」、「小布施町立図書館 まちとしょテラス」などで日本建築学会作品選奨、2007 年に「茅野市民館」で日本建築学会賞作品賞、日本建築学会作品選奨、日本建築家協会賞、BCS 賞などを受賞。2011 年に日本芸術院賞受賞。著書に「Shuffled 古谷誠章の建築ノート」(TOTO 出版)「からんどう」(王国社)「マドの思想」(彰国社) など。

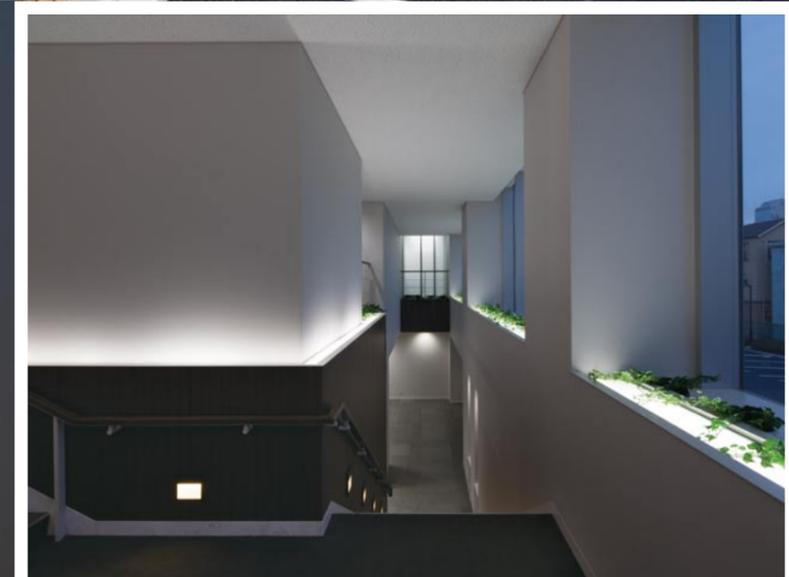


Zepp Namba (Osaka)  
設計者／大林組大阪本店一級建築士事務所  
施工者／大林組



この記念館は、創立 100 周年を期に、実習と学習の場を大阪・天満橋に統合する「学びの場の再編」を目指すと共に、土佐堀通と大阪城をつなぐ上町筋に面して新たな顔づくりが求められた。そこで、大学のロゴを象ったタイルで建物を包むことで、建物自体が大学の象徴となる「さらなる 100 年へ向けてのゲート」にふさわしいデザインを提案した。六角形の鋳込みタイルを集積した「ハニカムタイルスクリーン」は、日射遮蔽・視線制御の機能を有し、周辺環境と内部空間の緩衝装置の役割をもつ。また、将来の機能拡充による増築計画の際に、総合設計制度が効果的に採用できるよう、道路境界に対して建物を 4m ずつセットバックしてあらかじめ公開空地を確保した配置計画としている。

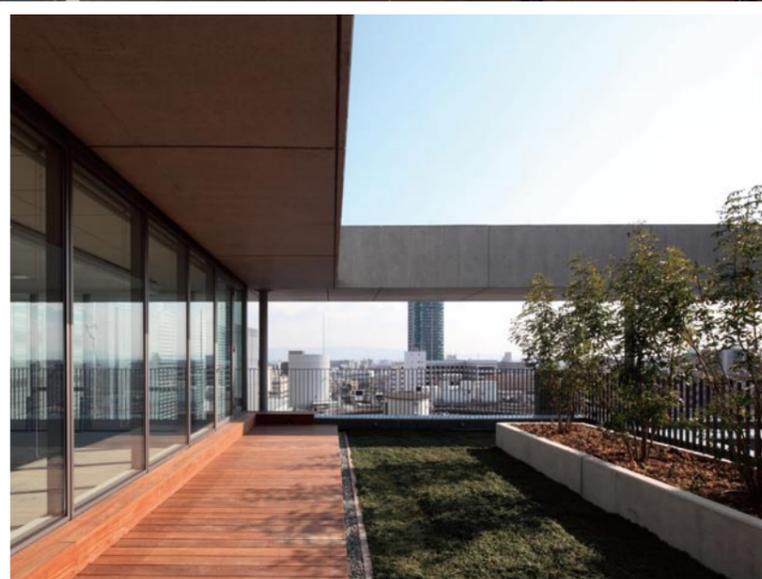
建築主：学校法人 大阪歯科大学  
所在地：大阪市中央区  
用途：大学  
竣工：2013.3  
構造規模：S 造  
敷地面積：5,729.79㎡  
建築面積：792.94㎡  
延床面積：2,884.35㎡  
写真：古田写真事務所 古田雅文



コールセンターなどの顧客サポート部門、空調機器メンテ技術者の研修機能、および関連会社事務所機能を併せもつ複合施設である。低層2階建てとし、吹き抜け階段を設けることで、各機能の分断を極力少なくし、連携がスムーズに行えるようゾーニングしている。鉄道敷きに近接するため、振動、遮音対策として鉄筋コンクリート造+杭基礎を採用した。

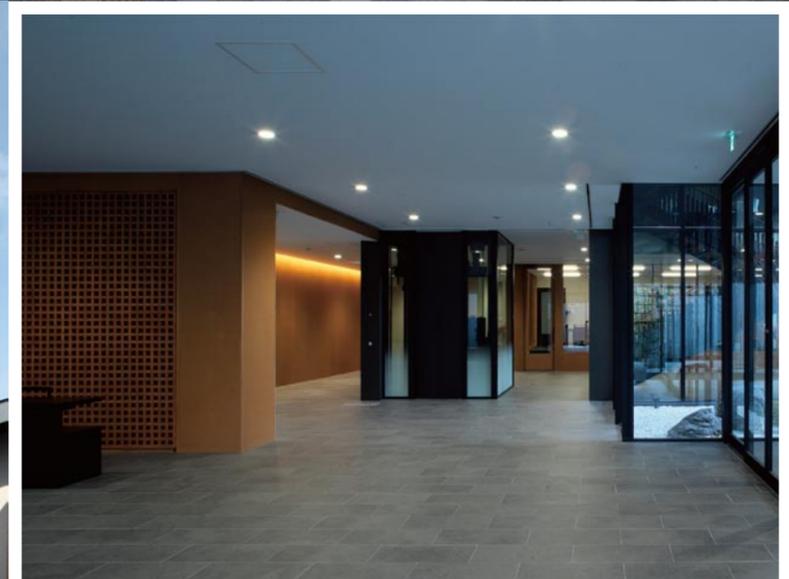
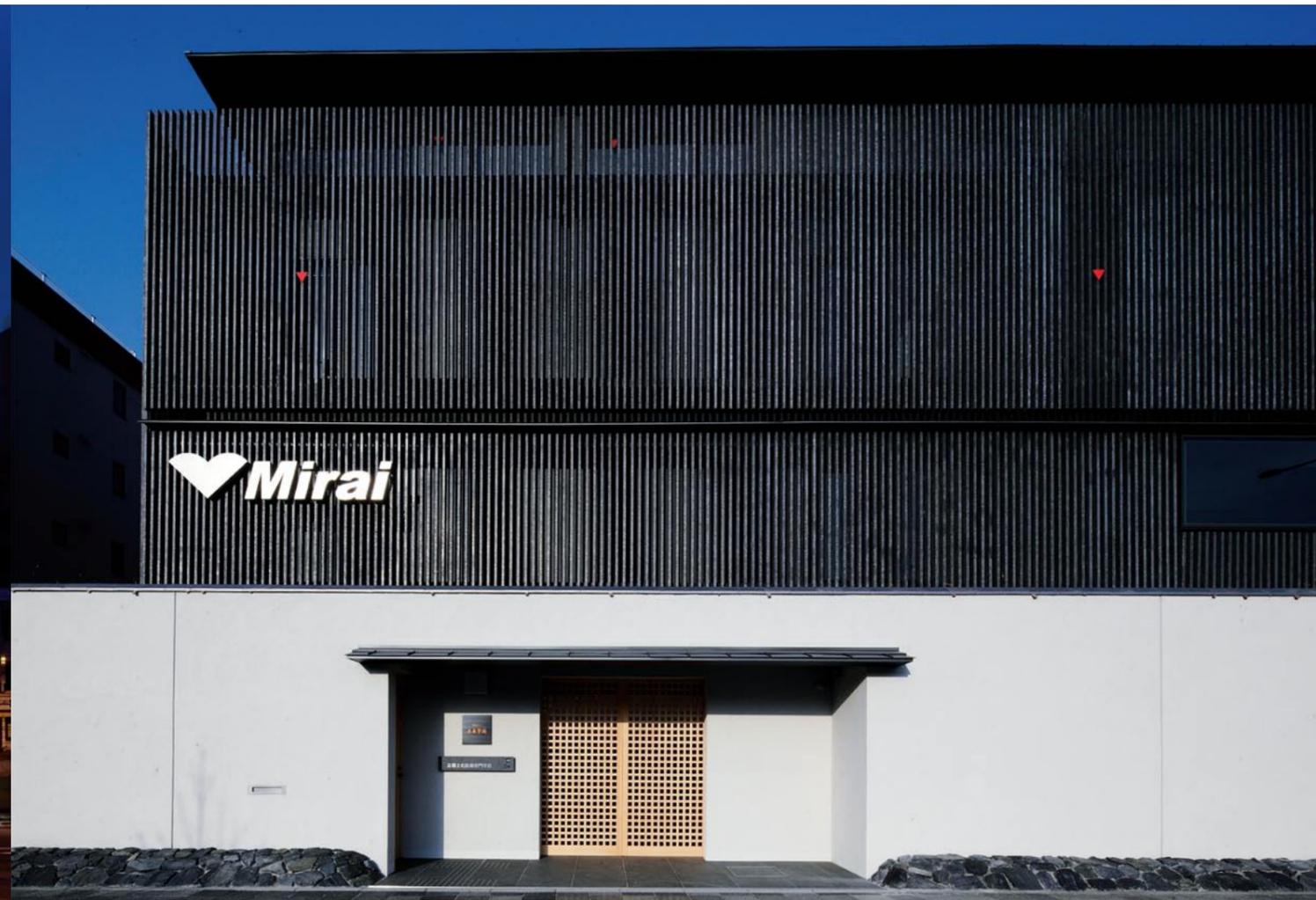
外観は、奥まったエントランスへ誘引するよう、水平ラインを強調したデザインとし、遮熱に優れたLow-Eガラスのカーテンウォールを採用することで、南向きの開放的な吹抜けホールを実現した。(岡 広)

建築主：日立アプライアンス  
 所在地：大阪市淀川区  
 用途：事務所  
 研修所  
 竣工：2013.1  
 構造規模：RC造  
 地上2階  
 敷地面積：3,455.74㎡  
 建築面積：1,097.33㎡  
 延床面積：1,959.60㎡  
 写真：母倉知樹



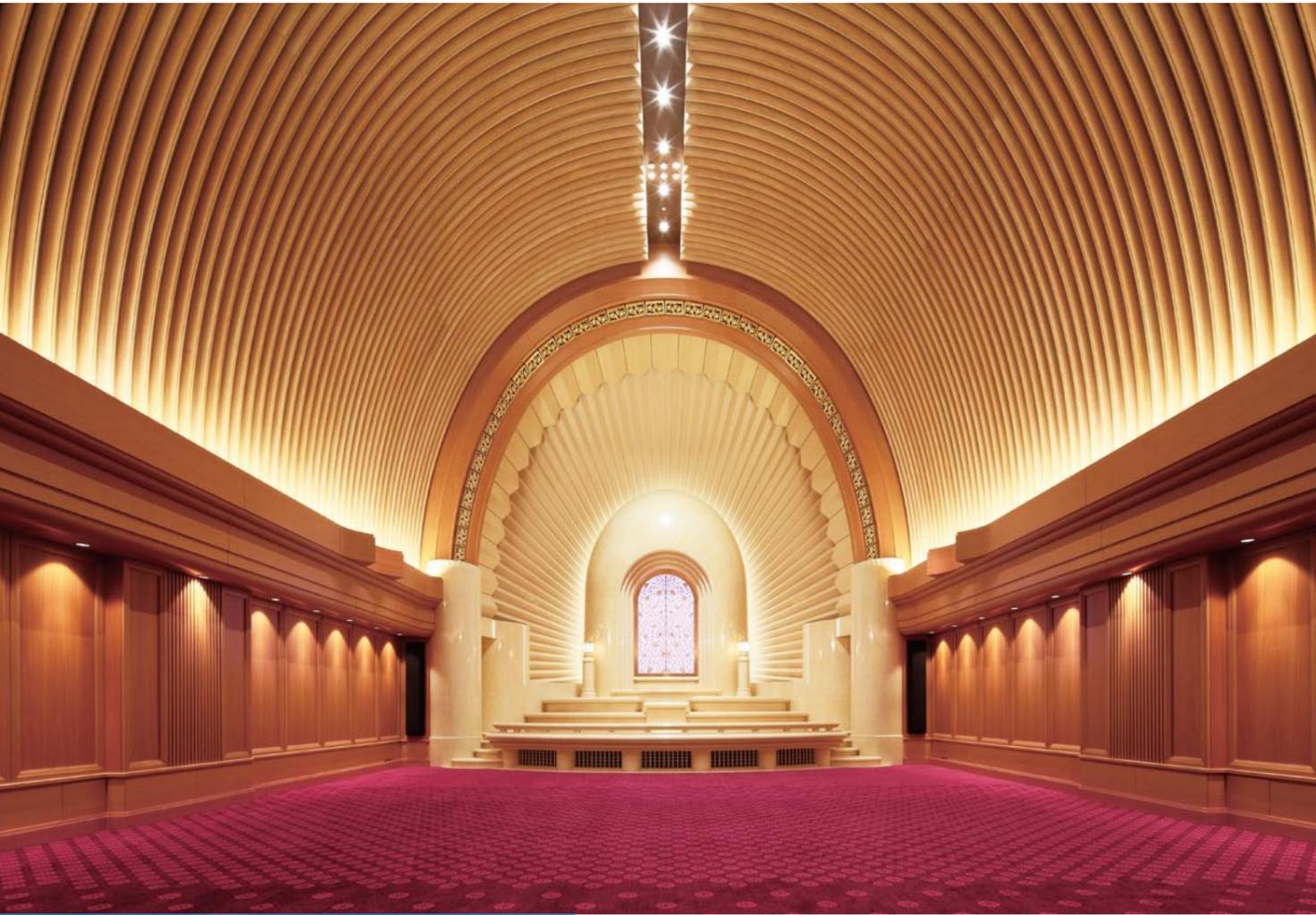
安倍野・天王寺エリアの中心に位置するビルの建替事業。低層を商業、高層を事務所用途とし、長期間に亘る建物資産価値の維持、マルチテナント対応のフレキシビリティが要求された。「免震フラットスラブ+鉄骨無垢柱」構造により耐震性と設備更新性を確保しつつ、高い貸室有効率と透明感を両立した。更なる機能として、基準階最大7分割対応、貸室内給排水・換気増強対応、クライマーロールスクリーンによる日射制御、等を実現した。外観は水平フィンとガラスによるシンプルな機能美を追求し、テナントサインをフィン上に自立ガラス形式で設置した。1階部分では、建物を東西に貫通するエントランスホールを設け周辺地域への貢献を目指した。(須賀定邦)

建築主：岸本ビル株式会社  
所在地：大阪市阿倍野区  
用途：事務所・店舗  
竣工：2013.1  
構造規模：RC造(一部S造)  
免震構造  
地上9階  
敷地面積：1,217.94㎡  
建築面積：972.29㎡  
延床面積：8,051.42㎡  
写真：古川泰造



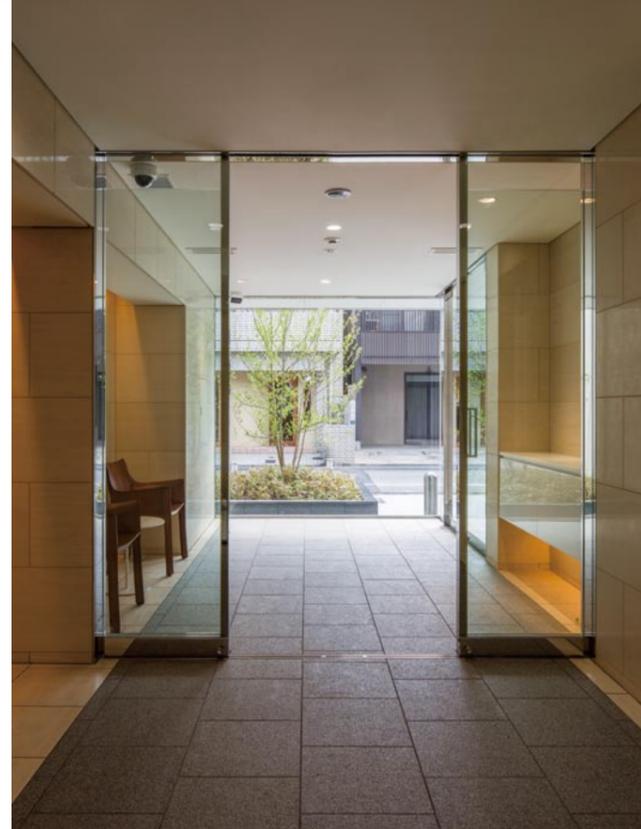
日本の伝統・文化・歴史を学ぶことを通じて、ホスピタリティあふれる歯科衛生士、秘書の育成を目指す専門学校の新築計画である。世界遺産二条城に面した敷地において、外部から内部へ、下階から上階へとつながるシーケンシャルな空間構成の中に、見え隠れする内庭や京都の風景を取り込むことで、現代建築における日本建築の奥性の新たな展開を試みた。建物を覆うスチールの縦格子は和瓦や石垣になじむ素材感とし、軒庇をシンプルに組み込んだ。内側にはバルコニーを設置し、外観に奥行きを与えながら、省エネルギーやメンテナンス性の向上など、環境配慮にも大きく貢献している。

建築主：未来学園  
所在地：京都府京都市  
用途：学校  
竣工：2013.2  
構造規模：S造  
地上4階  
敷地面積：1,435㎡  
建築面積：1,021㎡  
延床面積：3,912㎡  
写真：古川泰三  
(大平滋彦)



敷地は平城宮跡にほど近い古墳と低層住宅に囲まれた歴史的な地区にある。講堂としての大空間を確保しながら周辺環境と調和するボリュームとするため、講堂を含む大部分の室を地下に設けている。地上にはエントランス棟、講堂棟の2棟を配し、視覚的に世俗的なものと聖なるものを独立させるとともに、地上から地下に降りるにつれて俗世から聖なる空間へ導かれる計画とした。外壁は漆喰風左官材、屋根は銅板葺とし、古来からある材料を採用することで歴史ある地域にふさわしい外観とした。また、古墳の堀と大きな池に囲まれた水位の高い敷地に対し、密閉性の高い地下空間を実現するために、特殊な技術として地下躯体へ鉄板防水を採用している。

建築主：宗教法人  
妙道会教団  
所在地：奈良県奈良市  
用途：講堂  
竣工：2013.1  
構造規模：RC造  
敷地面積：1264.30㎡  
建築面積：399.38㎡  
延床面積：697.350㎡  
写真：山崎浩治



このビルは地下1階地上5階の全面改装の建築である。景観条例に基づき一階に庇を設け、二階から最上階まで粗い格子状のデザインとし両端をバルコニーとしている。その部分を給排気利用し避難バルコニーも兼ねた。このカーテンウォール方式の開口がこの建物の顔でありこの環境に相応しいと考えた。そして設備も全て取り替え四十一年の時間を乗り越え再び新しい命が誕生した。改装前の建物が幸い前面道路より5mセットバックし両側の塀が二階の高さまで立ち上がっていたことで、近隣の視線を気にする事の無い囲まれたスペースに植栽を施すことができた。この余白の空間が通りや来訪者に季節感をもたらししてくれるだろう。

所在地：京都府京都市  
用途：事務所  
竣工：2013.03  
構造規模：RC造  
敷地面積：433.41㎡  
建築面積：346.16㎡  
延床面積：2123.16㎡  
写真：松村芳治



# 木を活かす合板加工の開発力

文 進藤勝之

「de niro (デニール)」と聞いてみなさんは何を思い浮かべるだろうか。実は Dedicating natural inspire to your room「自然の息吹をあなたのお部屋に」という意味を持つ複合フローリングの名称である。

複合フローリングは基材に合板を用い、表面に天然木化粧単板や化粧シートを貼り、仕上げ塗装を施す多機能フローリングの総称で、施工性や機能性の優れた商品として広く普及していることは周知の事実である。しかしこの「de niro」今までの複合フローリングとは違う、なにか懐かしい風合いを醸し出している。

## 調達力と加工技術

「de niro (デニール)」を生産するメーカー株式会社センエイは四〇年前インドネシアからの輸入合板を取扱う会社から始まっている。センエイの強みはそのルーツからくる合板の調達力とメーカーとしての加工技術にある。例えば水に強く強度に優れた合板、曲げに強くしなやかな合板、あるいは長さ5mで幅三〇cmのサイズの合板など、クライアントの要求に適切に応え、その上で無駄のない加工を施す技術をもつ。

その加工技術とは積層部門、塗装部門、フロアー部門と大きく三つの部門に分かれている。その三つの技術をもって大手建材メーカーや部材メーカー、ハウスメーカーや部材メーカー、ハウスメーカーからの多様な要望、OEM生産の依頼に応え続けてきたからこそできる技術力によって、合板の良さを最大限に発揮し、多機能性と風合を両立させることに成功した商品なのです。フローリングといえば無垢という価値もありますが、いままでも複合フローリングが担ってきた高耐久・耐汚染・抗菌性などの多機能性をもちながら、無垢の風合いに近づけ、クオリティーの高い床材に触れながら生活する住環境に貢献できる商品だと自信をもってお届けできます」と間崎社長は言う。

取材の中で「わたしたちは大地と太陽の恵みを感じそれらに育まれた木を愛します」というセンエイの経営理念を口に、その理念のもと「合板というかたちで「木」を活かしていきたいと思っている」という間崎社長の言葉が印象に残った。「無垢」「合板」という差別化ではなく、どちらも太陽と大地の恵みを受けた「木」であるという視点から、改めて合板という「木」の可能性を考えてみたい。

「de niro (デニール)」や「ひのきお」は言うならばセンエイが住まい手に直接訴えかける合板技術の一つかたちである。我々建築士はその住環境に関わる者として、センエイの技術の粋を一度手に取りその目で確かめてみたい。

スメーカーなどを通じて、我々の見えな部分でしっかりと生活を支える製品を生みだしている。

たとえば積層部門の技術によって合板・MDF・OSB・PBなどのカット、調厚加工、最大5mにもおよぶ練り合わせ、長尺接合などにより階段や窓枠、ドア枠、扉、リフォーム部材などの内装建材の芯材や基材の製品を生み出している。また不良材として廃棄処分される製品を合板基材として再生させ、世に送り出す環境事業としての一翼も担っている。

塗装部門では全長四〇〇m、言い換えれば一日最大二〇〇坪以上の合板塗装・乾燥が可能ラインを持ち、そのラインによりコンクリート型枠用合板、仮設床用塗装合板、冷凍船内塗装用合板、コンテナフローリングなどの特殊塗装合板を生み出している。しかも塗装表面の強度に有効な天然乾燥ラインで、この規模のものは今や国内唯一の生産ラインとなっており業界では品質確保の上で大きな強みとなっている。

今の時代、下地材として使われてきた合板そのものを仕上げとして意匠的に扱う設計も数多く見られる中で、これらの技術の組み合わせが、合板を表舞台で活躍させるべく可能性を開いている。

そして、フロアー部門では更なる特殊技術を用い、冒頭の「de niro (デニール)」をはじめとする自社オリジナル製

品や、OEM商品、特注製品などを生産している。

## 合板と塗装の無限の組み合わせ

合板と塗装の組合せで我々に最も身近なものはコンクリート型枠である。

海外から丸太を購入し、国内で合板を生産、塗装して型枠合板として販売するという流れは時代と共に変遷し、海外で生産された塗装型枠合板を国内に輸入するという流れにシフトしていき、国内の合板専門の塗装ラインは消えて行くことになる。そのような流れの中センエイは、合板の調達力とクライアントのニーズに応える姿勢により、仮設床用塗装合板や冷凍船内装用塗装合板、コンテナフローリングなどコンクリート型枠以外での製品を生み出しながら塗装ラインを維持していくことになった。今では国内にある天然乾燥の塗装ラインで一日当たり二〇〇坪以上の生産量を誇るのにはセンエイのもつ塗装ラインのみとなっており、農林水産省に「産業遺産」と言わしめる唯一の生産ラインとなっている。このように、型枠用合板以外の商品が生み出された経緯から見ても、この塗装ラインで合板と塗装の無限の組み合わせに挑戦しながら商品開発ができるという訳だ。

その一つの例として、にわかには脚光を浴びているのは国産材を使った針葉樹合板を活用することだ。

針葉樹合板は我々建築士の間では構造用合板として知られているが、節の多さや表面の粗さから多くは下地材として利用されている。しかし近年の更なる国産材活用を推進する流れから、国産材使用

の針葉樹合板に塗装を施し、製品として活用できないかと様々な可能性も模索している。また、国内産檜を基材として活用し、国産材七五%以上の材積を確保した複合フローリング「ひのきお」という商品を開発し、木材利用ポイントなどの時代のニーズに対応する商品を生み出している。

このように針葉樹合板が新しいセグメントに進出するのに必要な技術、設備を持つておりその可能性を模索し即実践できるのは国内ではセンエイのみである。「この取材を通じて知って頂いたセンエイの技術が更なる合板の可能性を開くよう、積極的に私達に相談して頂きたい」と株式会社センエイの間崎社長は言う。

## 技術の粋としての「de niro」

そういった背景から産まれた天然木突き板複合フローリング「de niro (デニール)」

サママという植樹木の南洋材を使用した三層芯を持ち、それをクルインという固い樹種が挟み込むという五層構造の基材に、塗料による着色をせず、熱による発色処理を施したカバの天然木化粧単板を貼り、その上に「ヴェンチレートコート」という呼吸する特殊塗装を施すことで製品に仕上がっている。従来の複合フローリングにありがちだった、単板の質感を損なうような光沢感はなく、自然なマット感があり、見る角度によって変わる天然木独特の木目質感をもつ。「なにか懐かしい風合い」はこのセンエイオリジナルの「ヴェンチレートコート」にあるようだ。

この商品をセンエイの技術で抽象化し

- ①塗装した合板を天然乾燥しているところ。人工乾燥より塗膜に強度がでる。
- ②塗装ライン。生産量に応じて塗装色や機能についても対応可能だ。
- ③積層部門の長尺接合ライン。最大5mもの合板が製作可能だ。
- ④針葉樹合板の試作塗装の打合せをする間崎社長。



合板加工技術の可能性を開いていきたいと語る間崎社長

株式会社センエイ  
〒506-0011 岸和田市木材町一五―四  
問合せTEL 072-436-15769  
ホームページは「センエイ」で検索

# ひろば HIROBA 建築構造案内

二〇一三年度のHIROBAは、「建築構造案内」と題して、関西で活躍する構造設計者にインタビューし、その人物像や考え方を紹介していく。

第二回目は、第一回目に引き続き、株式会社日建設計の加登美喜子氏。今回は、建築や構造に対する考えなどを中心に掘り下げる。

**取り組みの変遷①——コンクリート**  
——日建設計の構造部門では、構造種別や新築、改修などで、専門のチームに分かれていくのでしょうか？

「意匠設計部門では、医療施設を専門とするチームがありますが、構造設計部門にはありません。最適な構造計画を提案するためには、幅広い知識と経験が必要なので、原則は何でも設計できるように育てられます。その中で得意分野もでてきます。」

に考える癖ができました。」

——新人賞を受賞されたのは、そういった構造について評価されたからですか？

「構造計画というよりは、作品としての完成度の高さだと思っています。建物に入ると、トップライトの光だけが効果的に壁を照らしていたり、浮遊する空間の向こうに、桜だけが見えたりと、本当に美しい建物なのです。構造設計者として二翼を担い、実現させたその姿勢を評価されたのだと思います。私が携わった建物の中では、一番の空間だと今も思っています。」

## 取り組みの変遷②——鉄

「その後、同じ意匠チームで、武庫川女子大学建築スタジオや宮内庁正倉院事務所などの、PCaやPCを活かした設計が続ききました。他の構造形式で意匠と構造が融合した設計を提案しようという雰囲気になりました。私にとっての鉄の時代到来です。」

——ろうきん肥後橋ビルを先程見学してきましたのですが、構造計画がどうなっているのか、一目では分かりませんでした。

「X方向は、鉄骨の純ラーメン構造ですが、耐震間柱を入れて剛性も確保しています。」

——X方向の正面は、二本の鉄骨柱だけですよね？

「あれは極厚の鋼管柱で、鉛直荷重に対しては地震荷重に対してもかなり頑

——育てられるのですか？

「育てられるというか、実際には、気がついたら様々なタイプの仕事をしていたという感じです。」

また、社内で構造種別や形式などのトレンドもあります。

私が入社して三年目頃から、PCaPC（プレキャスト・プレストレストコンクリート）造が流行り始めました。RCの打ち放しでは難しい複雑な形を工場での精度よく製作できるのがプレキャストコンクリートです。それをさらに躯体に利用しようとするもので、まさに、意匠と構造が融合した構造形式です。そのため、通常は隠れてしまう構造躯体が現しになり、自分が描いた図面がそのまま形になって見えるので、設計は大変なのですが、凄く楽しかったですね。完成してから、意匠担当者、ここはよかったとか、ここはもうちょっとと言いが合うのが設計の醍醐味です。」

張っています（笑）。免震構造なので、一般の建物より入力が小さいことも、構造計画を実現できた要素のひとつです。」



ろうきん肥後橋ビル 南北面ラチスフレーム  
撮影：東出清彦

免震構造ということで逆に苦勞もありました。柱を支持する積層ゴムは、圧縮力には強いのですが、引張り力にはとても弱い。いかにして地震時に積層ゴムに引張力を生じないように設計するか、というのが免震構造の極意なのです。でもこの建物は、両側にラチスウォールがあることで、どうしても外側に地震力が集中してしまいます。積層ゴムの配置や、ハットトラスの設置、そして施工順序による力の流れのコントロールを組合せ、何とか解決しました。

でも、こういった場面で知恵を絞るのは楽しくもあります。建設地や建物の特性によって、免震層や上部構造の剛性や耐力をチューニングしながら設計することは、構造設計ならではの面白さだと思います。」

——出雲市庁舎について、お聞かせ下さい。

「出雲市庁舎は鉄骨造とパイルド・ラフト基礎をうまく組合せた建物です。普通であれば長い支持杭が必要なのですが、あえて、地下を設けて、鉄骨造である上部構造の重量と排土重量をバランス

## 連載第二回

# 加登 美喜子

- 一九九三年 神戸大学工学部建築学科卒業
- 一九九五年 神戸大学大学院工学研究科 環境計画学専攻修了
- 一九九五年 株式会社 日建設計入社
- 二〇〇九年 京都大学大学院工学研究科 建築学専攻博士課程修了
- 二〇〇七年 ろうきん肥後橋ビル 出雲市新庁舎
- 二〇一〇年 赤坂センタービルディング

現在 構造設計部門構造設計部 主管  
構造設計に従事

主業歴（設計終了年）

一九九八年 住友倉庫南港第二営業所 倉庫

二〇〇三年 京都大学医学部 芝蘭会館

二〇〇七年 ろうきん肥後橋ビル

二〇一〇年 赤坂センタービルディング

賞を受賞された、京都大学医学部の芝蘭会館も設計されていますね。

「この建物は、一部PC造であるのと同時に、細柱の先駆けのような作品です。細い柱は軸力のみ負担し、地震力はRC壁で全て負担させる、という考え方です。」

しかし実は、この芝蘭会館では、構造的には細柱はあまり重要なことではありません。構造設計で一番大事なのは床です。床は地震力の通り道で、床から耐震要素へ力を伝達します。この建物は、壁に光を当てたいという意匠設計者の意図で、ホール壁面の周囲に存在するトップライトをはじめ、耐震壁の手前で床にスリットが切られており、力の流れを整理するのがとても難しい仕事でした。ポイドスラブの屋根と耐震壁の組合せで設計をまとめることができました。」

この設計で床スラブの大切さが身にしみて分かり、力が最後まで流れるかを常に見て、周囲に鉄骨庇を設けた、まさに鉄を現し、活かした建物です。この建物の二年わたる現場監理から戻ってきて、鉄を満喫したと思っていたところ、初めて木造の仕事を担当することになりました。最近地球温暖化問題で、二酸化炭素削減に有効な素材として木材利用が薦められています。日建設計でも木造の仕事が増えてきましたが、まだまだ少数派です。超高層建物の設計はできるけど、木造で設計するととなると、たとえ自分の家であったとしても、勉強しなくてはできないと思います。」

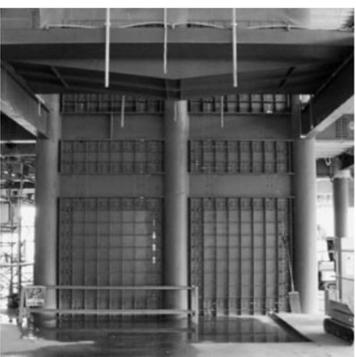
この初めての木造の設計をするにあたって、二〇分の一でスケッチを描きました。悩みながらも理解を深め、気になったところなど、細かい部分まで全て描き込みをしました。周囲からは描き過ぎと思われるれていたことでしょうか？

——その木造の建物用途は何ですか？

「学校の校舎でRC躯体の屋根部分が木造トラス構造になっているものや、すべて木造の棟もありました。」

初めてのことに挑戦するのは、大変ですね。設計の経験があるほど、いろいろなことが気になり、止まって考えこんでしまい、設計にかなり時間がかかりました。特に、鉄とコンクリートという材料に慣れているので、木材ならではの軽さや柔らかさに感覚がなかなかついていけませんでした。」

この建物を経験して不思議に思ったのが、昔は、全て大工さんが建物を建てていたのに、いつから、意匠担当、構造担当などに分かれるようになってしまったのか、ということ。住宅であれば、木造の架構ができれば、屋根に金属板を



出雲市庁舎 鋼板耐震壁

## 取り組みの変遷③——木

——コンクリートを経て次は鉄へ、今も鉄が続いているのでしょうか？

「三年ほど前に赤坂センタービルディングの設計に携わりました。外柱形式の外周フレームを亜鉛メッキン酸処理、ネル仕上



出雲市庁舎

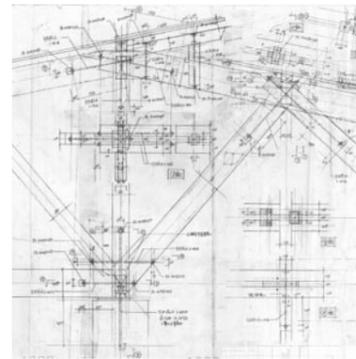


撮影：古田雅文

真いて、床の仕上げをしたら出来上がり。もしかすると私でも一人で設計ができるかも、と思ってしまいました。気のせいだと思いますが……」

——構造設計をしている人の方が、そのハードルは低いのではないのでしょうか。

「私も、そう思いました。やはり構造は建築の原点のかな、と。」



木造架構の詳細図

博士論文——ブレース構造のすすめ

——加登さんの博士論文「中低層鋼構造筋かい骨組の耐震性能評価と変形性能に立脚した設計法の提案」についてですが、設計への展開等、どのように考えていらっしゃるのでしょうか。

「設計に展開するというよりは、構造設計の設計体系を変えたい、というのが主旨なのです。現在の基準では、大地震に対しては、原則、保有耐力計算が必要ですが、その際、どの程度の耐力が必要か、日本では細かくランク分けされており、マトリクス状になっています。しかし、鉄骨造にブレースを入れたからといって、そこまで細かく耐力を分けなくてもいいのではないか、そのマトリクスをひとつに集約できるのではないか、というのがこの論文の視点です。構造設計者が、使いやすく、採

用しやすい設計体系を目指しています。

また、純ラーメン構造よりブレース構造のほうが、最大変形が小さいので、設計としても優位ではないかという意味もあります。鉄骨造純ラーメン構造の場合、基準のまま設計すると、大地震時には大きく変形して、外装材まで損傷したり、内部仕上げにも大きな影響が出ます。そこで、軽量鉄骨間仕切壁の実大実験も行ない、変形と損傷の関係について検証をしました。内外装の損傷を軽減するために、純ラーメン構造よりブレース構造を採用し、より最大変形の小さな構造体を指向するべきだと思っております。」

——そうすることで、施主の財産を守ることができるといふことなんですね。

「そうですね。ちなみに、私は東日本大震災発生時は、現場監理をしていたので、構台用の柱上に作られた3階建てのブレース構造のプレ、ブ現場事務所になりました。机の下に潜るくらい揺れたのですが、鉄筋ブレースは切れていませんでした。やはりブレース構造は強い、と実感しました。」

しかし、多くの構造設計者がブレース構造を採用しないのは、そのマトリクスが面倒で、ついつい設計が簡単な純ラーメン構造で設計してしまう。人のことは言えないのですが（笑）。

——溶接という点においても、今後、優れた溶接工の減少が予想されるので、このブレース構造というのは、有効ではないかと思われました。

「そうですね。ブレース構造でも溶接部位は必ずありますが、ガセットさえ工場ですべて溶接して搬入すれば、現場は組立てだけで済みます。」

——でも、プランの自由度は、ラーメン構造の方がありますよね。「その通りです。だから、一長一短なのですが。」

目指すべきもの

——しかし、ある程度の制約がないと、何でも自由、というのは、逆に弊害もあると思うのです。

「例えば、最近、事務所ビルは大スパン架構が当たり前になっています。構造計画上可能ではありますが、結局そこにお金をかけている訳です。一方で、柱だけがテナントが入らなくても困る。無柱空間がどこまで必要なのかと疑問を持つこともあります。」

免震構造にしても、免震層の上に固い箱状の躯体を載せるのが理想的です。しかし最近では、プランの制約や柱スパンを大きくするために、上部構造を柔らかい鉄骨造の純ラーメン構造とすることもありますが、もちろん設計はできるのですが、本来あるべき免震構造とは少し違う気がするのです。

構造計画の合理性は、建物の性能や経済性にも直結するはずなので、本当に施主や建物を使用する人のためになる提案とは何か、意匠設計者と一緒に考えていきたいと思っています。

——では加登さんは、大架構や構造技術の粋を集めたような建築を苦勞して設計したとしても、成し遂げた、という達成感より、疑問を感じるのでしょうか？

「最終的に社会のストックとして残れば良いのですが、そうでなければ、設計者の自己満足になってしまうと思います。」

最近、一番残念に思ったのは、旧長銀ビルが解体されるといふニュースです。大胆な架構計画や外装のDPGが売りの建物でした。いろいろな理由があるのでしょうが、たった二十年で壊してしまふなんて。長く愛されて使ってもらえる建物とは何かを真剣に考えなければならぬと思います。

数年前に、日建設計の構造設計の理念について話し合う機会があり、私たちが構造設計のみならず建物の設計すべてに責任を持つ設計者です、という理念が策定されました。それは、構造以外の意匠やコスト面などももちろんそうですが、こういった社会に対する責任も含まれるのではないのでしょうか。

やはり、何年経っても良い建物、というものがありません。いつ見ても古びず、施主はもちろん、人々にいつまでも大事にされて、誰が見ても「いいな」と思える建物。私たちはそれを目指したいですね。」

頭の回転も行動もとても早く、テンポ良く話す方で、意匠設計者の私にも分かりやすい言葉を選んで、気さくに答えてくださる。能力や技術力のみならず、人との関わりや大事さを理解し、仕事を楽しんでやっておられる、明るい人柄が感じられた。

私も大学の同窓かつ女性で、組織事務所にも勤めた経験もあるので、共感するところが多々ありつつも、仕事に対する、まっすぐ前向きな取り組み方、意識の高さ、に感嘆した。多くの気付きを得られるお話をいただけたと思う。

聞き手／奥河歩美（経歴 一頁参照）

京都府亀岡市にある障害者支援施設・みずのきを運営する松花苑は、アール・ブリュットやアウトサイダー・アートという言葉や概念がない時代からアート活動に取り組んでこられ、その活動の一環として、昨年10月に市街の民家を改装して美術館をオープンされました。みずのき美術館の奥山理子さんに今回の美術館をおつくりになったきっかけや、今後の活動、障害者支援とアートと町屋再生などについての思いをお聞かせいただきました。

## みずのき美術館とアール・ブリュット、そして—

### 奥山 理子

1986年京都府生まれ。みずのき美術館立ち上げに関わり、現在は展覧会の企画及び、亀岡市内における文化発信事業のコーディネートを担当する。松花苑みずのきには中学生の頃から頻りに訪れており、ここに暮らす人たちは家族のような存在です。個人的にも安心できる環境で、社会的に意義のある目標に向かい、仕事に従事できていることに、喜びと責任を感じる日々です。

二〇一二年十月七日、北町商店街はその日、たくさんの人たちが行き交い、集い、この町に誕生した小さな美術館の開館を祝福する一日となりました。

みずのき美術館は、JR亀岡駅から徒歩一〇分の旧亀山城下、北町に誕生しました。乾久美子さん（乾久美子建築設計事務所）によって大正時代に建てられた民家がリノベーションされ、アール・ブリュットの考察、紹介、そして文化の多様なあり方について考えあう美術館として歩み始めました。

#### みずのきの絵画教室

美術館を運営する障害者支援施設・みずのき<sup>※1</sup>では、一九五九年の設立から五年後にあたる一九六四年に日本画家・西垣籌一さん（一九二二—二〇〇〇）を迎え、絵画活動を開始しました。鶏小屋あとに庭を敷いて始まった、絵の時間<sup>※2</sup>は、八つ切り画用紙とクレヨンを使って勝手気ままに色並べを楽しむというような、情操教育、余暇活動の一つでした。

しかし西垣さんは、その時すでに彼らの中に秀でた色彩感覚を持った人たちがいると強く感じ、当時を以下のような言葉で述懐しています。

「玉石の原石の、そのまた原石のようなものが、ゴロゴロ転がっていた。だから、コソコソ絵を描くこと、それだけを教えた。」<sup>※2</sup>

一九七八年頃から、原石の原石と表された十数名のみずのきの人たちのために、西垣さんは本格的な絵画教室の取り組みに挑みます。

重度の知的障害がある人たちなので、その伝え方、関わり方は個別の方向と方法を模索しなくてはならず、表現技法の

私たちは、建築に関する専門的知識を持ち合わせていませんが、美術館として、作品を紹介する空間の質を高く維持したいという願いを強く持っていました。乾さんに出会い、そして初めて設計の構想からその考え方に触れた時、建築に関することのすべては乾さんのイメージに委ねたい、そう思うことは極めて自然なことでした。実際に、工事のために毎月行われていた会議で提案されるデザインのひとつひとつから、私たちは建築という新しい世界に導かれ、その世界の豊かさに触れる幸せな時間を体験していました。

開館してから実感するのは、想いをかたちにするための拠点がいかに効果的であるかということです。今、美術館にはアートがはじめて身近になったという親子連れや、仕事の帰りに立ち寄ってくれる行政の人、ほんの小さなきっかけでこの美術館を知った人など、来館のたびにたくさんのお会いが生まれています。「通り庭」という京町家の手法を意匠として取り入れ、大胆に配置された大きな窓越しに、この間知り合った人たちと手を振りあったり、会釈しあうとき、それは私にとって、美術館ができたことの喜びを一番実感する瞬間なのです。

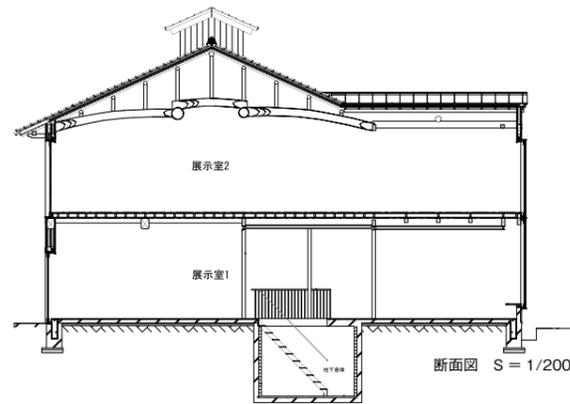
これから

六月二十二日より開催する三回目の企画展覧会「たくさんのおうちの家」では、みずのき絵画教室のメンバーだった堀田哲明さんを紹介します。

約三〇年にわたって唯一の主題として描き続けた「家」は、一〇〇〇点に及び、そこから一〇〇点ほどを選びました。色とりどりの「家」を、乾さんが設計した家のカタチをした美術館で鑑賞する。絵



写真撮影：阿野太一



断面図 S = 1/200

習熟を基本としながら、彼らの中に起こる発展的な瞬間を、機を逸することなく拾い上げ、画面への定着に結びつくよう最大の注意を払ったとの記述も残っています。<sup>※3</sup>

そして西垣さんとの関係性によって、彼らが制作した作品は、油画・アクリル画、木炭画、そしてドローイングや習作など含めると、その数は一万八千点のほりります。

#### アール・ブリュット

「アール・ブリュット (Art Brut)」とは、フランス人の芸術家ジャン・デュビュッフエ (Jean Dubuffet・一九〇一—一九八五)によって提唱された言葉で、既存の価値や制度、そして伝統的な美術教育の影響を受けていない作り手によって制作される作品を指します。美術史的な枠組みだけでは解釈し尽くすことができないそれらの作品は、同時に私たちに様々なことを示唆してくれる重要なタームとして、今あらためて注目を集めているといえます。

一九七六年、デュビュッフエが蒐集した数多くの作品をもとに美術館、アール・ブリュット・コレクション (Collection de l'art brut) がスイス・ローザンヌに開館しました。そして一九九四年、みずのき絵画教室の六名の作者による三二点の作品が、アジアで初めてこの美術館に永久収蔵されるという出来事がありました。

さらに日本において大きな転機となったのは、二〇一〇年にアル・サン・ピエール美術館 (Halle Saint Pierre / フランス・パリ)で開催された「アール・ブリュット・ジャポネ展」でした。アール・ブリュットトの概念から導きだされる日本人の作家

を観るだけでなく、「家」をとおして、暮らすことについて考えさせてくれるこの体験は、建築、アート、デザイン、ケア (福祉)、そして家に暮らすすべての人とともにぜひ共有したい、そのように思っています。

みずのきで暮らす人たちは、自らの言葉で想いを確かめあうことはできません。けれども彼らのように、もの言わぬ人たちがつくり出した作品から、私たちは様々なことを想い巡らします。また来館した人たちがそれぞれに、そうした考えに耽る時間を得ることができるよう、作品や作者のありのままがそっと存在しているような、そんな空間をつくり出せるよう努めたいと思います。

美術館の運営という、まったく未知数の試みですが、この建築が私たちの背中をたしかに押しつけてくれている、そのよう

だけを紹介した展覧会で、一年以上にも及ぶ会期と二万人という来場者が、その反響の大きさを物語っています。

「アール・ブリュット・ジャポネ展」の開業を支援した日本財団は、これを機に、本格的に日本におけるアール・ブリュット支援に取り組みます。

その支援事業の一環として、鑑賞環境の整備のために町なかに残る古民家や蔵を改修し、作品の魅力を発信するアール・ブリュット美術館を全国に一〇箇所程度開設することが決まり、京都ではみずのきが、その運営者として選ばれました。

#### アール・ブリュットと建築、そして美術館としてのほじまり

「古民家再生」というと、京都市内の町家のような様式化された豪邸を連想しますが、私たちが出会ったこの小さな町家は、いわゆる普通の人が日常をおくる家であり、最低限の資材で建設され、またその時々都合に合わせて改修も繰り返されてきました。

建築設計を担った乾さんは、この小さな美術館の設計に際して次のように語っています。

「クライアントは、元・散髪屋の空き店舗としてひっそりと佇んでいた(町家)にアール・ブリュットと同様の質を感じ取ったのであろうか。周辺地域の中でも特に情けない部類にはいる町家を美術館へと改修することを発想した。(中略)町家の記号性を極力回避しながらも、町家が本来持っている形式の多様性が感じられるような改修を試みている。そうすることでアール・ブリュットならではのゆたかな作品群に呼応できるような場をつくり出せればと考えた。」<sup>※4</sup>

に感じていきます。

※1 正式名称は、社会福祉法人松花苑みずのき  
 ※2 「ひと」Vol.4「魂の画家たちは何をうつつのか」  
 西垣籌一／太郎次郎社／二〇〇〇年  
 ※3 「無心の画家たち」西垣籌一著／NHK出版／一九九六年  
 ※4 「新建築」二〇一二年二月号



### みずのき美術館

〒621-0861 京都府亀岡市北町18  
 TEL 0771-20-1888 FAX0771-20-1889  
 www.mizunoki-museum.org

展覧会 「たくさんのおうちの家」  
 会期 2013年6月22日(土) - 9月1日(日)  
 10:00 - 18:00  
 休館日 月曜日・火曜日(但し祝日は開館)  
 料金 無料  
 主催 京都府・みずのき美術館  
 監修 保坂健二郎(東京国立近代美術館主任研究員)

建築設計事務所

暑中見舞 2013

人、社会、地球環境との共生

希望は星に、足は大地に

金峰 鐘大

株式会社 I A O 竹田設計  
大阪市西区西本町1-4-1

瀬尾 忠治

株式会社 阿波設計事務所  
大阪市浪速区元町2-2-12

小林 務

株式会社 石本建築事務所大阪支所  
大阪市中央区南本町2-6-12  
(サンマリオンNBFタワー)

松村 慶三

浦辺設計  
大阪市中央区北浜2-1-26  
(北浜松岡ビル4F)

湯浅 安彦

株式会社 小西設計  
大阪市西区立売堀1-12-16

宮川 明夫

株式会社 総合積算  
大阪市北区東天満1-11-19

菅野 尚教

株式会社 大建設大阪事務所  
大阪市西区京町堀1-13-20

岡本 慶一

株式会社 日建設計  
大阪市中央区高麗橋4-6-2

佐野 正一

株式会社 安井建築設計事務所  
大阪市中央区島町2-4-7

建設会社

竹中工務店

取締役社長 宮下正裕

大阪本店 大阪市中央区本町4-1-13  
TEL06(6252)1201  
東京本店 東京都江東区新砂1-1-1  
TEL03(6810)5000

大成建設

TAISEI

For a Lively World

常務執行役員関西支店長 山田文啓  
http://www.taisei.co.jp/

マンション  
大規模修繕は 建装工業へお任せください。



マンション大規模修繕、設備改修、  
内装リフォーム等  
総合リニューアルの専門企業です。

専門のスタッフが対応させて  
いただきます。  
お気軽にご相談ください。

建装工業株式会社  
〒564-0051 大阪府吹田市豊津町18-38  
TEL. 06-6821-3611  
関西支店  
本社:東京 支店:東北、関東、千葉、横浜、中部 営業所:札幌、青森、福島、岩手、茨城、福岡

暑中見舞 2013

大阪府建築士会役員

見える社会貢献活動へ

宮崎 八郎

宮崎建築設計事務所  
大阪市中央区西心斎橋1-1-11  
(心斎橋西ビル8F)

柳川 陽文

株式会社 小河建築設計事務所  
大阪市中央区博労町1-7-16  
(CSTビル)

岡本 森廣

全日本コンサルタント株式会社  
大阪市浪速区港町1-4-38

澤本 侃一郎

株式会社 K&S総合企画  
大阪市西区京町堀2-2-1  
(スマタビル10F)

上田 茂久

株式会社 上田茂久・建築設計工房  
大阪市北区中津1-12-3

安心・安全な住まい環境の創造

西 邦弘

株式会社 キンキ総合設計  
大阪市中央区谷町4-5-9  
(大阪屋谷町アークビル4F)

濱田 徹

鹿島建設株式会社  
大阪市中央区城見2-2-22

田中 義久

株式会社 田中都市建築事務所  
大阪市中央区本町橋5-14  
(OZ本町橋BLD902)

環境に配慮した企業活動で社会に貢献します

阿部 弘明

株式会社 空間デザイン  
吹田市垂水町3-29-2

稲葉 繁夫

株式会社 繁建築構造設計事務所  
大阪市中央区農人橋2-1-30

今井 俊夫

今井環境建築事務所  
大阪市阿倍野区阪南町3-31-6

辻井 光憲

大和ハウス工業株式会社  
大阪市北区梅田3-3-5

おかげさまで30周年

平平安安 深深謝謝

徳岡 浩二

株式会社 徳岡設計  
大阪市北区西天満6-3-11-205  
大阪・東京・兵庫・滋賀・九州

森田 茂夫

アトリエクリオ  
神戸市灘区摩耶海岸通1-3-22-601

横田 友行

株式会社 能勢建築構造研究所  
大阪市中央区瓦町3-3-7  
(瓦町KTビル)

米井 寛

株式会社 東畑建築事務所  
大阪市中央区高麗橋2-6-10

山城 健児

コーナン建設株式会社  
大阪市北区大淀南1-9-19

建築設計事務所

暑中お見舞申し上げます

芳村 隆史

株式会社 碧-AO-建築事務所  
大阪市阿倍野区丸山通1-3-44

宇澤 善一郎

アトリエ・U  
和泉市池田下町1699

岩永 裕人

株式会社 アール・アイ・エー  
大阪市北区堂山町1-5  
(大阪合同ビル)

一般社団法人 **日本建築材料協会**

会長 立野 純三

本部 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-4-23 撞木橋ビル4階  
電話06(6443)0345(代)  
FAX06(6443)0348  
支部 関東・中部・中国・四国・九州  
http://www.kenzai.or.jp/



住まいに、人に、安心を。  
住宅情報相談センター  
住宅相談・住宅情報提供・各種研修事業  
住宅展示場の企画・運営  
住宅性能評価機関・住宅保険取扱機関

一般財団法人大阪住宅センター

理事長 江川 武美  
大阪市中央区南船場四丁目4番3号  
心斎橋東急ビル4階  
事務局 06-6253-0071  
http://www.osaka-jutaku.or.jp

**大阪ガス株式会社**  
リビング事業部 大阪リビング営業部

大阪市西区千代崎3丁目南2-37

TEL(06)6586-3241  
FAX(06)6586-3259

太陽光発電とLED照明で  
省エネ・低コスト環境を実現します

電気設備設計施工  
**CHOYO 朝陽電気株式会社**

http://www.choyo.co.jp 〒530-0005 大阪市北区中之島2丁目3-18  
中之島フェスティバルタワー17階  
TEL 06(6385)1361 FAX 06(6385)1050

学校法人 福田学園  
**OCT 大阪工業技術専門学校**  
**OHSU 大阪保健医療大学**  
**OCR 大阪リハビリテーション専門学校**

理事長 福田 益和  
〒530-0043 大阪市北区天満1-9-27  
TEL 06-6352-0093 FAX 06-6352-5995  
URL http://www.fukuda.ac.jp

一般社団法人  
**大阪空気調和衛生工業協会**

会長 太田 隆  
〒541-0052 大阪市中央区安土町1-6-14 朝日生命辰野ビル2階  
TEL 06(6271)0175 FAX 06(6271)0177

**ナイスジョイント**  
ステンレス製=給水・給湯・冷温水配管用管継手



**オーエヌ工業株式会社**

代表取締役社長 中村 政弘  
■本社・工場 〒708-0015 岡山県津山市神戸466  
TEL(0868)28-0171(代) FAX(0868)28-4254

低炭素化の防水仕様で環境へ貢献  
■ピロウエルトE新熱工法 ■シグマートE  
**日新工業株式会社**

大阪支店 支店長 北村 克己  
大阪支店：〒550-0013 大阪府大阪市西区新町1-12-22  
TEL 06-6533-3191(代表)  
本社：〒120-0025 東京都足立区千住東2-23-4  
TEL 03-3882-2424(代表)

**3D レンティキュラー**  
お好みの写真やイラストを  
3D 画像に!  
飛び出す感や、奥行き感が楽しい  
3D 画像が作れます。  
1 枚だけのポスターや POP から  
DM まで用途もいろいろ。  
カラー封筒印刷・バリアブル印刷も  
大好評稼働中です!

**UV 印刷**  
既成のボールペンや、ゴルフボール、スマート  
フォンのカバーなどに、フルカラープリント。  
オリジナルグッズや記念品に!

**CHUSSA**  
中和印刷紙器株式会社  
〒640-8225 和歌山市久保丁4丁目53  
TEL.(073)431-4411 FAX.(073)431-8188 ブログ・ツイッターも更新

一企画から印刷までトータルにクリエイトしますー  
**株式会社 日報印刷**

代表取締役 井上 務  
〒550-0004 大阪市西区靱本町1-16-7 TEL.(06)6445-6888

Hyper-MEGA, Hyper-ストレート, HBM工法  
NAKS, RODEX工法

**日本コンクリート工業株式会社**

本社 〒108-0075 東京都港区港南1丁目8番27号(日新ビル)  
基礎事業部 ☎(03)5462-1030 FAX(03)5462-1049  
大阪支店 〒541-0059 大阪市中央区博労町4-5-9(本町太平ビル)  
☎(06)4963-6911 FAX(06)4963-6916  
名古屋支店 〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-11-5(エステート名古屋ビル)  
☎(052)581-0666 FAX(052)541-2530  
四国支店 〒760-0022 香川県高松市西内町4-6(神原ビル)  
☎(087)897-2984 FAX(087)897-2986

**クマリフト** エレベーター・ダムウエーター  
福祉機器  
本社：大阪市西区京町堀1-12-20 TEL：0120-07-0570  
http://www.kumalift.co.jp/

石川工場

建築の質の向上と安全性の確保に貢献

一般財団法人  
**日本建築総合試験所**

理事長 辻 文三  
〒565-0873 吹田市藤白台 5-8-1  
TEL 06-6872-0391 FAX 06-6872-0784  
http://www.gbrc.or.jp

一般社団法人 **大阪電業協会**

会長 藤田 訓彦  
大阪市北区西天満5丁目6番10号 富田町パークビル  
電話(06)6363-4077(代) ファックス(06)6363-4079

# INFORMATION

## Sponsorship

建築士会からのお知らせ

本会では、大地震発生時に市民の安全を確保するため、全会員の皆様を対象として「被災建築物応急危険度判定士」の資格取得キャンペーンを実施しております。

つきましては、判定士の資格をお持ちでない会員の方は、下記の判定士養成講習会を受講され、判定士登録をしていただきますようお願いいたします。

### 被災建築物の応急危険度判定養成講習会

8/21・10/23・12/18・2/19 CPD4単位

日程 ①8月21日(水) ②10月23日(水)

③12月18日(水) ④2月19日(水)

時間 13:30～17:00
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
定員 各150名(定員になり次第締切)
受講資格 大阪府内在住または在勤する一級建築士、二級建築士、木造建築士及び建築基準適合判定資格者。

受講料 無料
テキスト代 1,500円(税込み)
※応急危険度判定士登録時に必要な書類
①建築士免許証の写し(1枚)
②顔写真(か)2枚。6ヶ月以内。無帽・無背景・正面上半身。縦4cm×横3cm)。
申込先・問合先
一般財団法人大阪建築防災センター耐震部
Tel.06-6942-0190

### 平成25年度 建築士定期講習

建築士事務所に所属の一級・二級・木造建築士で、平成22年度に建築士定期講習を受講された方が対象です。なお平成22年度以前に建築士試験に合格し、本講習を未受講の方は、平成25年度中に必ず受講してください。

■日時・会場
9/3(火)たかつガーデン
定員200名、会場コード5C-52
11/30(土)たかつガーデン
定員200名、会場コード5C-53
時間 9:40～17:30
■申込締切日
9/3(火)開催分:7/31(水)申込書必着
11/30(土)開催分:10/31(木)申込書必着
※大阪での申込受付は郵送のみです。必ず簡易書留郵便にてご送付ください。
※定員に達し次第、受付を終了します。
■受講料 12,900円(消費税含)
■申込書配布・受付場所
大阪府建築士会事務局
大阪府建築士事務所協会事務局

二級建築士／設計製図 受験対策講習会
実力養成コース 7/14～9/8
直前対策コース 8/25～9/8
模擬テストⅠ・Ⅱ 9/1、9/8

有能で意識の高い建築士の養成を目標に、実務にも直結した指導を安価な受講料で行います。

■実力養成コース(全10回、模擬テスト2回含む)
日程 7月14日(日)、7月15日(祝)、7月21日(日)、7月28日(日)、8月4日(日)、8月11日(日)、8月18日(日)、8月25日(日)、9月1日(日)、9月8日(日)
時間 9:30～16:30
会場 大阪府建築健保会館5階
定員 50名(申込先着順)
受講料 建築士会会員(準会員)110,000円、一般125,000円
■直前対策コース(全3回、模擬テスト2回含む)
日程 8月25日(日)、9月1日(日)、9月8日(日)
時間 9:30～16:30
会場 大阪府建築健保会館5階
定員 25名(申込先着順)
受講料 建築士会会員(準会員)35,000円、一般40,000円

■模擬テストⅠ・Ⅱ
日程 Ⅰ:9月1日(日)、Ⅱ:9月8日(日)
時間 9:30～16:30
会場 大阪府建築健保会館5階
定員 【各回】25名(申込先着順)
受講料 【各回】建築士会会員(準会員)13,000円、一般15,000円

### 平成25年度 既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《一般診断法講習会》

7/26・9/25・10/30・11/27 CPD5単位

平成24年に診断マニュアルの大幅な改訂があり、最新の診断技術を取得していただく講習会です。

日程 ①7月26日(金) ②9月25日(水)
③10月30日(水) ④11月27日(水)
時間 11:00～16:30
会場 大阪府建築健保会館内
定員 各150名(定員になり次第締切)
受講料 会員5,000円 会員外9,000円
テキスト代 7,000円(2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法)

### 平成25年度 既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《限界耐力計算講習会》

大阪府マニュアルに基づいて最新の技術を習得していただく講習会です。
日程 ①8月27日(火) ②12月17日(火)
時間 11:00～16:30
会場 大阪府建築健保会館内
定員 各150名(定員になり次第締切)
受講料 会員6,000円 会員外8,000円
テキスト代 3,500円(大阪府木造住宅の限界耐力計算による耐震診断・耐震改修に関する簡易計算マニュアル)

一級建築士／設計製図 受験対策講習会
課題解説＋エスキースコース 8/24
模擬テストⅠ～Ⅱ 9/14、9/21、9/28

有能で意識の高い建築士の養成を目標に、実務にも直結した指導を安価な受講料で行います。
■課題解説＋エスキースコース
日程 8月24日(土)
時間 課題解説9:00～12:00、エスキース13:00～17:00
会場 大阪府建築健保会館5階
定員 40名(申込先着順)
受講料 建築士会会員10,000円、一般12,000円

■模擬テストⅠ～Ⅲ
日程 Ⅰ:9月14日(土)、Ⅱ:9月21日(土)、Ⅲ:9月28日(土)
時間 製図実習9:00～15:30、図面講評16:30～18:30
会場 大阪府建築健保会館5階
定員 【各回】40名(申込先着順)
受講料 【各回】建築士会会員12,000円、一般15,000円

※複数コースを同時にお申込みの場合は割引があります。

### 建築士法にもとづく「建築技術講習会」

平成25年度 第2回 あなたが行う監理のために～パワーアップ監理力～7/18 CPD3単位
今回の建築技術講習会は、監理についての特集です。設計事務所や施工会社としての監理(さらかん)の要点を解説します。
日時 7月18日(木) 13:25～16:25
会場 大阪府建築健保会館5階
内容 ・タイミングを逃さない設計監理手法
・鉄筋コンクリート工事の工事監理
・鉄骨工事の工事監理項目における留意点の解説

定員 150名(定員に達し次第締切)
受講料 建築士会会員3,000円、一般5,000円(テキスト代含)

### 木材利用ポイント事業のスタート

林野庁が進める木材利用ポイント事業が7月1日からスタートします。この事業は国内産の対象地域材を活用した木造住宅の新増築や内装・外装の木質化工事等に対して木材利用ポイントを付与し、地域の農林水産品等と交換できる事業です。本会はポイント申請窓口の一つとなり、申請を取り扱うこととしましたのでお知らせします。木材利用ポイント事業の詳細は「木材利用ポイント事務局のホームページをご覧ください。
http://mokusuzai-points.jp/

### 第33回大阪都市景観建築賞

周辺環境の向上に資し、かつ、景観上優れた建物やまちなみを表彰します。推薦用ハガキもしくは、HPからの電子推薦も受付ています。自薦もごございますので、自薦専用

書式をHPからダウンロードしてください。
主催 大阪府・大阪市・(公社)大阪府建築士会・(一社)大阪府建築士事務所協会・(公社)日本建築家協会近畿支部・(一社)日本建築協会

審査委員 安東義隆(産経新聞編集局社会部部长)
指田孝太郎(大阪府建築士会相談役)
下村泰彦(大阪府立大学大学院教授)
塚口明洋(日本建築家協会近畿支部幹事)
中嶋節子(京大大学院准教授)
夏原晃子(美術造形デザイナー)
久 隆浩(近畿大学教授)
藤本英子(京都市立芸術大学教授)
受付期間 7月1日(月)～7月31日(水)(当日消印有効)

対象 大阪府域内の建物及び建物を中心としたまちなみ
建物:平成20年10月1日から昨年7月31日までに完成したもの
まちなみ:昨年7月31日までに完成したもの
詳細は大阪まちなみ賞HPをご覧ください。
http://osaka-machinami.jp/
問合 大阪都市景観建築賞運営委員会事務局(大阪府建築士会内)Tel.06-6947-1961

### 第40回 賛助会員分科会セミナー

住宅設計の際に施主の高い信頼を獲得するためには、わかりやすいプレゼンテーション資料を作成することが有効です。本セミナーでは、自由度の高い3Dパースソフトを用いて設計内容をビジュアルに表現できる住宅・建築デザインの実用例を、「3DマイホームデザイナーPRO8」を用いてご紹介します。また、施主ユーザーへのアンケートから浮き彫りになった「施主から求められる建築家の建築・住宅デザインのプレゼン」について、メガソフト(株)から報告していただきます。
日時 7月11日(木) 講義18:00～19:30
質問コーナー&ミニ懇親会 19:30～20:30
セミナー概要

第一部 施主の声から知る「求められる」建築家とは?
第二部 「3DマイホームデザイナーPRO8」を用いたプレゼン資料作成
第三部 ユーザーによるソフト応用例紹介
講師:メガソフト(株) 広報室
会場 (株)内田洋行
大阪ユビキタス協創広場 CANVAS
大阪市中央区和泉町2-2-2
参加費(ドリンク・フード付) 会員1,500円 会員外2,000円
定員 100名(申込み先着順)

### 木の学校VII「大阪木材仲買会館見学＋現代に息づく伝統工法講演」

今年で7年目を迎える木の学校企画は、最新の木造建築の見学と伝統建築の技法についての講演という盛りだくさんの企画です。
日時 8月24日(土) 14:00～17:00

このINFORMATIONページの内容は本会ホームページのトップページにも同時掲載しています。本会ホームページからも予約することができます。
詳細は下記の本会ホームページへアクセスしてください。(建築情報委員会)
【大阪府建築士会ホームページ】
http://www.aba-osakafu.or.jp/

会場 大阪木材仲買会館
大阪市西区南堀江4-18-10

内容
第1部:国内初の木造耐火オフィスビルである大阪木材仲買会館を竹中工務店の担当者にも来ていただいて見学します。

第2部:社寺建築に精通された西澤工務店の西澤政男社長に伝統建築の技法について講演していただきます。

第3部:大阪木材青年経営者協議会メンバーとグループディスカッションを行います。

※終了後、懇親会を予定しています。
定員 55名(定員に達し次第締切、第3部のみ定員25名)

受講料 建築士会会員1,500円 一般2,000円(資料代含)
※第1部、第2部、第3部、懇親会のどれに申込みをするかご記入ください(第1部～第3部すべて申込みの場合も受講料は同じです)。

### 第56回建築士会全国大会「しまね大会」

10/19

全国の建築士会会員が集う全国大会を今年は鳥根県で開催します。ご参加の本会会員に対して本会から参加費5,000円を補助いたします。
テーマ 神集う國しまね すべてを引き寄せ縁結ぶー「ものづくり」の原点を見つめるー
日程 10月19日(土)
会場 くにびグメッセ
※松江まぢめぐり(10/19 8:30～12:30)
地域交流見学会(10/20)
申込 建築士5月号P25の参加申込書に必要事項をご記入のうえ、本会事務局まで提出。

### 平成25年度 定時総会 議事録(要約)

日時:平成 25 年 5 月 29 日 (水)
14：30～15：30
会場：ホテル大阪ベイタワー
出席:1,156名(うち、委任状出席1,002名)

岡本会長あいさつ
本年4月1日の公益社団法人移行を契機に、大阪府内43市町村を巡り、設立以来60年間のお礼と移行のご挨拶をして、今後の本会の諸活動についてのご協力を願いました。我々の活動の中で重要な要素は人と人との関係性だと認識しております。本会は多様な会員構成であり、いろんなジャンルに公益支援ができることは本会の活動の特長といえます。今年度の重点目標として、公益目的事業の推進、健全な財政運営、会員増強方策の実現を掲げております。公益社団法人として、皆様のご支援のもと、社会から必要とされる団体として活動して参ります。岡本議長 議事録署名人は上田茂久氏、西邦弘氏、田中義久氏を指名して承認された。▼第1号議案／平成24年度事業報告の承認

運営委員会では、公益社団法人への移行申請を24年12月に行い、公益認定等委員会の2回に亘る審査を経て、25年3月19日付けて認定され、公益社団法人の設立登記を4月1日付けで完了しました。会員増強PTは会長の諮問機関として設置され、会員減少の続く状態を改善すべく増強案を実行します。建築士制度推進委員会では、建築

締切 7月19日(金)
大会の詳細は「建築士5月号」をご覧ください。

### 事務局からのお知らせ

2013年版会員名簿の掲載事項について

9月刊行予定の会員名簿につきましては、掲載事項が①氏名②勤務先名③勤務先住所・電話・Fax④建築士級別(正会員のみ)となっております。つきましては、A.氏名以外(②～④)を掲載しない。

B.連絡先が自宅のみのため、③に自宅の連絡先を掲載する。
のいずれかを希望される場合は、7月19日(金)までにFaxまたは郵便にて事務局までご連絡をお願いいたします(既にご連絡をいただいている場合は不要です)。

### 本会の催し参加申込方法

本会ホームページのWEB申込サイトからお申し込み下さい。FAX・郵送の場合は、事務局にお問い合わせ下さい。なお、建築士定期講習会は郵送のみの受付となっております。

問合・申込
大阪府建築士会事務局
〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17
高田屋大手前ビル5階
TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103
メール info@aba-osakafu.or.jp
HP http://www.aba-osakafu.or.jp/

士試験の受験者数は一・二・木造建築士を合計して学科で3954名、製図で1700名。指定登録機関の業務は、一・二・木造建築士を合計した新規登録申請数は817名。構造・設備一級建築士の合計した新規登録者数は34名。制度の普及・促進に向けた取組みは、写真付建築士免許証明書の義務化及び5年毎の更新制、CPD制度と連携した定期講習の改革を連合会に提言しています。CPD登録者数は1585名、専攻建築士登録者数は532名。事業委員会は、建築士の特性に応じた活動や交流事業を実施しました。法定の定期講習は2450名、耐震診断講習会は1641名の受講者があり、一般府民を交えた「くらしのエネルギーを考える」シンポジウムは211名、建築士会全国大会「いばらき大会」には本会から46名が参加しました。建築表彰委員会は、まちなみ賞・あすなる賞を実施。建築情報委員会ではHPの全面リニューアルを図り、また「建築人」ギャラリーによる建築人賞を実施しました。社会貢献委員会は、8地域区分による交流活動を回り、建築相談分科会に本会所属の建築士を派遣できる体制を構築しました。地域貢献活動助成は3団体。以上、平成24年度の事業報告について承認された。

## Administration

行政からのお知らせ

### 第15回堺市景観賞募集

堺市内の優れた景観を有する建築物等の所有者や良好な景観形成に貢献する活動を行っている方などを表彰します。

推薦・応募期間 7月1日(月)～8月30日(金)必着
推薦・応募方法

所定の応募用紙(堺市ホームページなど)に必要な事項を記入の上、郵送、電子メールまたは持参により堺市都市計画部都市景観室「堺市景観賞」担当まで。
問合・送付先 堺市建築都市局都市計画部
都市景観室「堺市景観賞」担当
〒590-0078 堺市堺区南瓦町3-1
Tel.072-228-7432
mail.tokan@city.sakai.lg.jp

HP:http://www.city.sakai.lg.jp/shisei/toshi/toshikeikan/index.html

▼第2号議案／平成24年度財務諸表の承認
貸借対照表により、負債及び正味財産合計87,324,117円。正味財産増減計算書により、24年度の正味財産は前年度より9,051,855円の資産増の14,424,527円。収支計算書により、事業活動収入174,178,293円、同支出158,171,188円、収支差額16,007,105円。投資活動収入5,932,656円、投資活動支出21,939,249円、収支差額-16,006,593円。収支全体では、次期繰越金収支差額512円となる決算を報告し、承認された。

▼第3号議案／平成24年度監査報告の承認
議案書をもとに、適正に執行されたことを報告し、承認された。
▼第4号議案／平成25年度役員改選の承認
議案書をもとに、改選候補者を選挙して承認された(役員名は本紙6月号に掲載)。

▼第5号議案／平成25年度事業計画の報告
基本目標は①公益社団法人として相応しい活動、②健全な財務運営が可能な組織体制と活動、③一般府民への社会貢献活動と会員建築士増強運動です。運営委員会は運営・財務全般を担い、建築士試験運営・建築士登録業務等を所管して活動を行います。研修委員会は、法定の定期講習や一般研修を担っており、CPD・専攻建築士制度も運用します。事業委員会は、青年・女性・シニア・賛助の特性に応じた活動や交流行事等を実施します。建築表彰委員会は、まちなみ賞・あすなる賞、25年度は大阪建築コンクールも実施します。建築情

「幻燈で見る懐かしい明治・大正・昭和の建築たち～」

庶民の生活に結びつく、身近な、懐かしい風呂屋、旧郵便局、駅舎、旧街道、校舎、旧遊郭、地藏堂、風車などを幻燈で見ながら、古きよき時代を思い出しながら、語り合います。関心のある方は自由にご参加ください。

また、7月13日～20日まで、近代建築の保存に関する写真、資料なども展示します。
日時 7月20日(土) 11:00～

会場 堺市立東図書館
(南海高野線北野田駅前アミナス北野田4階)
講師 明治建築研究会 代表柴田正己
問合 明治建築研究会 Tel.072-236-3357

### ダイビル本館 見学会

日本建築協会主催による、ダイビル本館の見学会です。

日時 7月25日(木) 14:00～16:30
講師 中島(日建設計)、古城(大林組)ほか
定員 30名(先着順) 参加費 一般2,500円
申込 FAXかE-mailで、①氏名②所属③建築協会会員・一般の別④参加証送付先住所⑤電話番号⑥CPDをご希望の方はCPD番号をお知らせ下さい。

問合 (一社)日本建築協会
Tel.06-6946-6981
E-mail:jigyoka@aaaj.or.jp

報委員会は、建築士及び府民に建築に係る情報を提供します。社会貢献委員会は、府民のための建築相談に重点を置き、また耐震診断業務や応急危険度判定業務など行政と連携した支援活動等を担っています。公益社団法人として明確な事業目的をもって活動することを説明し、報告議案として了承された。

▼第6号議案／平成25年度事業予算の報告
入会金収入80名、会費収入の正会員2,830名、準会員他50名、賛助会員115社を想定した相当額、及び公益目的事業・収益目的事業・共益目的事業による事業活動収入計135,508,000円、各種事業の支出及び事業・管理費等による事業活動支出計135,808,000円、事業活動収支差額-300,000円です。差引額の-30万円は、固定資産の地域貢献活動基金より補填することにより、事実上は収支差引0円の事業予算計画を報告した。【別表G】収支予算の事業別区分経理の内訳表は、公益目的事業・収益目的事業・共益目的事業の区別ごとに直接経費に管理費等を従事割合で配分したものを加えて収支差額を算出することにより、公益目的事業はマイナス事業であることが明確になり、それらを補うために会費等の共益目的事業収入他を充てることで収支バランスをとっていることが分かる資料として説明し、報告議案として了承された。
岡本議長 本日付議された上程全議案が承認された旨を確認し、定時総会を閉会した。

# 建築設計に最適化された 3次元 CAD Revit LT と、 2次元作図向け AutoCAD LT の併用で 設計品質と生産性が大幅に向上。

## AUTODESK® AUTOCAD® REVIT LT™ SUITE 2014

AutoCAD® Revit LT™ Suiteは、直感的な3次元ビルディングインフォメーションモデリング(BIM)が行えるAutodesk® Revit LT™と、2次元作図ツールとして普及しているAutoCAD® LTがセットになった建築向けBIMソリューションです。Autodesk RevitやAutoCADプラットフォームベースのソフトウェアを使用する関係者とも設計データを共有できます。さらに、Autodesk Subscriptionをご契約のお客様は、統合されたクラウドベースのサービスAutodesk360にアクセスして、フォトリアリスティックなレンダリングを作成することも可能です。



※1 希望小売価格は2013年5月7日現在の価格です。価格は予告なく変更される場合があります。最新の価格は弊社Webサイトまたはオートデスク認定販売パートナーにご確認ください。オートデスク認定販売パートナーの販売価格はオートデスク認定販売パートナーが決定します。  
※2 Autodesk 360 Cloud Renderingを使用するには、Subscription契約が必要です。Subscription契約にはその他の特典が含まれます。Subscriptionの詳細についてはwww.autodesk.co.jp/subscriptionをご覧ください。

AutoCAD Revit LT Suite 2014 コマーシャル新規	希望小売価格 <b>¥249,900</b> (税込) ※1
AutoCAD LT 2008 - 2014 から AutoCAD Revit LT Suite 2014 への アップグレード	希望小売価格 <b>¥139,650</b> (税込) ※1
AutoCAD Revit LT Suite 2014 Subscription 新規	希望小売価格 <b>¥37,800</b> (税込) ※1 ※2

## AutoCAD Revit LT Suite アップグレードキャンペーン 2013年5月7日(火)～2013年7月19日(金)

AutoCAD LT 2008 - 2014をお持ちのお客様がAutoCAD Revit LT Suite 2014へアップグレードすると今なら20,000円がキャッシュバックされるキャンペーンを実施中。AutoCAD LT 2008 - 2014をお持ちのお客様は、最新のAutoCAD LTと建築向けBIMツールRevit LTがセットになったお得なAutoCAD Revit LT Suiteに、この機会に是非アップグレードをお願いします。

- **キャンペーン期間** 2013年5月7日(火)～2013年7月19日(金)
- **キャンペーン販売製品** AutoCAD Revit LT Suite 2014
- **対象ユーザー** AutoCAD LT 2008 - 2014 から AutoCAD Revit LT Suite 2014 にアップグレードされるお客様
- **ご購入窓口** オートデスク認定販売パートナー、最寄りの販売店及びオートデスクストア



対象ユーザー様(購入元製品バージョン)	希望小売価格(税込)	キャッシュバック
AutoCAD LT 2008 - 2014	139,650 円	<b>20,000 円</b> 希望小売価格の約15%相当 ※

※ 希望小売価格は2013年5月7日現在の価格です。価格は予告なく変更される場合があります。最新の価格は弊社Webサイトまたはオートデスク認定販売パートナーにご確認ください。オートデスク認定販売パートナーの販売価格はオートデスク認定販売パートナーが決定します。

※詳細は下記 URL のキャンペーンページをご覧ください。  
<http://www.autodesk.co.jp/ltpromo>

オートデスク株式会社  
Autodesk, AutoCAD, AutoCAD LT, DWG, Revit, Revit LT は、米国および/またはその他の国々における、Autodesk, Inc. の子会社、関連会社の登録商標または商標です。その他のすべてのブランド名、製品名、または商標は、それぞれの所有者に帰属します。該当製品およびサービスの提供、機能および価格は、予告なく変更される可能性がありますので予めご了承ください。また、本書には誤植または図表の誤りを含む可能性があります。これに対して当社では責任を負いませんので予めご了承ください。 © 2013 Autodesk, Inc. All rights reserved.



### 理事会報告

文責 本会事務局  
日時 六月十九日(水)十六時～十七時三十分  
場所 本会会議室  
出席 理事四〇名、監事二名  
(一)入退会の承認

- (二)会計報告
- 会員数減少傾向の中で会費入金時期が通常より早い傾向にあることを報告した。四月末の当期経常増減額は四〇、八六四千円を報告して承認された。
- (三)会員増強PT答申書施策の実現
- 各委員会に向けて基本施策を提示し、委員会においてアレンジはするものの会員増強を目指して実現を図る。
- (四)大阪へリターンマネージャー育成講座
- 実行委員会を大阪府教育委員会文化財保護課・大阪府登録文化財所有者の会・本会の三者で設置することを承認した。
- (五)派遣 推薦規程
- 本会会員を行政や他団体等に派遣・推薦する際の取扱いの規程を提案し、一部修正のうえでの同規程を承認した。
- (六)インターンシップの進捗報告
- (七)近畿建築祭(大阪会担当)
- 平成二十五年十二月七日(土)、関西大学天六学舎を式典会場として、周辺の天神橋筋商店街等を紹介する。
- (八)林野庁提唱の木材利用ポイント
- 森林資源の利用拡大を趣旨として、国内産木材を活用した木造住宅等にポイントを付与する。本会にポイント申請窓口を開設して協力する。
- (九)応急危険度判定連絡網の構築
- 理事は判定士資格を取得することとし、会員に取得普及キャンペーンを行う。
- (10)既存木造耐震診断業務の状況報告

### 建築相談

建築士の見たトラブル事例(十二)  
インフォームドコンセント 文 橋本頼幸

今月の「建築相談」コーナーは、相談員の竹田敦子様に話題提供をしていただきました。近年、特に医療現場においてインフォームドコンセントという言葉が盛んに使われています。一般的には、「正しい情報を伝えられた上で、自らの自由意思に基づいて合意する」ことを指します。この「正しい情報」というのは、必ずしも依頼者にとつて有利な情報のみならず、問題点や問題点除去に要する費用、不利益になる情報など全てを含んでいます。一方で、依頼者が「納得するまで」質問や説明を求めなければインフォームドコンセントは成立しません。従って、依頼者と実施・説明者の信頼関係が前提となります。今回の事例は、設計者・施工者はどこまでプロであるべきか、そんな問題提起していただきました。

倉庫新築のため、土地探しをされていた会社の社長から、相談を受けました。不動産業者からの紹介により、立地的にも価格的にも希望に合った土地が見つかったので、売買に先立つて立ち会って確認をして欲しいとの依頼です。そこは、数年前まで鍍金工場で、鉄骨造の建物でした。傷みが激しく、明らかに薬品で変色した箇所が数多くあり、内部の設備もそのままとなっていました。不動産業者は、一般的な取引としての土地建物売買を進めようとしていました。そこで、まず「土壌汚染はどうですか?」と聞くと、「少々のことでは大丈夫です。皆さん現状で建てられて、使っていますよ。」と実に軽い

返事が返ってきます。加えて「気になるなら、調査や届け出を買い主側で進めてくれ」と。そこで、役所に問い合わせたところ、当該工場は指定有害物質使用工場の指定を受けており、廃業時の設備関係の撤去及び土壌汚染の調査は、所有者または原因者において届け出をすることが義務付けられていることがわかりました。しかし、売買に際しては、売り主と買い主の間で協議することが原則とのことでした。どうしてもその土地が気に入った依頼者の社長は、その条件をのむところまでいったのですが、最終的には購入を断念され、別の不動産業者に新たに土地探しをされています。

断念した理由は、調査費用に約五十万円が必要であり、仮に土壌汚染があった場合の再調査と改良工事の費用は不確定で、見当もつかない。その上、建築可能なまでに要する時間は、半年から一年くらい必要とのことが明らかになったからでした。

竹田さんは、「建築を設計したり、施工したりする者にとつて、不動産売買についてどこまで踏み込んでいくのか、難しい問題だと思えます。しかし、どの立場にあつても医療現場と同じように、わかったことや気になること、危惧されることなどの説明は必要であり、それに基づいて合意形成、つまり、インフォームドコンセントは不可欠なものと感じています。」と付け加えました。建築にまつわる情報が膨大になり、法的にも複雑になる中で、建築設計者や施工者は、依頼者にとつてどこまで業務として情報の提供を行うべきか? 意外に線引きが難しいところですが、不確かな情報の提供やちよつとした見解の違いでトラブルになるケースも多々見受けられます。気をつけたいところです。

### 編集後記

筑波幸一郎・牧野隆義・荒木公樹  
「建築人(けんちくびと)」は今号で六回目を迎えました。森忠一先生は、村野藤吾先生の補佐役として人生を全うされた建築家です。また、渡辺節先生や村野先生といった方々とともに大阪府建築士会の設立発起人の一人として名を連ねておられ、その後は副会長の要職を務められた私たちの先輩でもあります。

今回の特集については、本年一月号で取材を行なった建築家の木原千利さんからの投げかけにより実現いたしました。森先生は、これまで歴史の表舞台に出られることがほとんどありませんでした。その理由は、森先生が村野先生の補佐役に徹しておられたからに他なりません。今号ではご子息の森忠彦さんと木原さんの協力により、次世代に森先生の姿の一端を伝えることのできる貴重な記事につながったのではないかと考えます。



村野先生と森先生、森先生と木原さんとの運命的な出会いを通して、受け継がれるものは、関西においては日本の建築にとつては資産とも言えるべきものだと改めて理解しました。私たちは、その資産の上で日々の建築活動に携わっていることに、心を新たにしました。



## 森 忠一郎

この住まいは、なだらかな丘の中腹に建つ。一見すると何の変哲もない住まいに見える。建物は道から控え、門から玄関までは長いアプローチが道と並行して続く。重心を低く抑えた平屋建ての外観は、周囲に対して声高にその存在を主張している訳ではない。しかしながら、この地域のまちなみにとっては、なくてはならない存在であることは確かだ。

軒庇をくぐり玄関に入ると、家人が客人を丁寧に迎えることのできる設えとなっている。室内は、視線が水平方向に導かれ、優しい塗り壁がそれを受け止め、そこにいる人に安心感を抱かせる。心地良い風の流れも、それが周到的な開口の配置によることに気づいた。また、各室のスケールは抑制が利き、客人を迎えるには小さすぎず、家人どうしが過ごすには大きすぎることはなく、森氏の思想と人柄が理解できる。この家を体験するにつれ、「足るを知る」という言葉が想起された。

前世紀は、近代にその起源を持つ「個」の価値観が偏重され、その結果日本のまちなみ・都市空間は混乱の中に陥ったと考える。「個」を超えて日本人が長い時間をかけて協働しながらつくりあげてきた範となる普遍性が、この住まいには宿っていると感じた。この普遍性こそ森忠一氏から木原千利氏に受け継がれ、木原氏の建築活動の根源となっていることを改めて理解した。

関西だけではなく日本の住まいのあるべき姿として、普通性を高めた結果がこの森忠一郎である。奇をてらわない本質について、私たち次代を担う人間が探究しなければならない課題として心に刻まれた貴重な出会いであった。

中澤博史＋荒木公樹

撮影：松村芳治

